

外付型 HDユニット オンラインガイド

このたびは弊社製外付け型HDユニットをお求めいただきまことにありがとうございました。
このオンラインガイドでは、ハードディスクのフォーマット方法をはじめ、製品の取り扱い方法についてガイドしています。
下のボタンから、ご参照になりたい製品をクリックしてください。

[LHD-HBU2/HBFU2シリーズ](#)

[LHD-HBSU2/HBSFU2シリーズ](#)

[LHD-HBSSAU2シリーズ](#)

外付け型 HDユニット オンラインガイド

このたびは弊社製外付け型HDユニットをお求めいただきまことにありがとうございました。
このオンラインガイドでは、ハードディスクのフォーマット方法をはじめ、製品の取り扱い方法についてガイドしています。
下のボタンから、ご参照になりたい項目をクリックしてください。

[使用上のご注意](#)[オプション品について](#)[使用環境について](#)[ハードウェア仕様](#)[フォーマット（初期化）について](#)[保証とサービスについて](#)[補足説明](#)[故障かな？と思ったら](#)

LHD-HBU2,HBSU2 シリーズをご使用の場合

- ・ ご使用のパソコンの仕様によっては、PC 電源連動機能が正常に動作しない場合があります。その場合は背面の電源スイッチにて電源の ON/OFF を切り替えてください。
- ・ 動作中のケーブルの抜き差しは絶対に行わないでください。不要なリセットや動作異常を招き、データが消失する恐れがあります。
- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。
- ・ 本製品を接続した状態でパソコンを起動する際、PC 電源連動機能により、本製品の電源が ON/OFF を繰り返す場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。
- ・ 本製品を USB 2.0 ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。USB 1.1 用ケーブルで USB 2.0 ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生することがあります。USB 1.1 ポートへ接続して使用する際もなるべく付属の USB 2.0 対応ケーブルをご使用ください。
- ・ 本製品はバスパワーでは動作しません。ご使用の際は、必ず本製品の AC コードを AC100V のコンセントに接続して電源を供給してください。

LHD-HBFU2,HBSFU2 シリーズをご使用の場合

- ・ ご使用のパソコンの仕様によっては、PC電源連動機能が正常に動作しない場合があります。その場合は背面の電源スイッチにて電源のON/OFFを切り替えてください。
- ・ 動作中のケーブルの抜き差しは絶対に行わないでください。不要なリセットや動作異常を招き、データが消失する恐れがあります。
- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。
- ・ 本製品を接続した状態でパソコンを起動する際、PC電源連動機能により、本製品の電源がON/OFFを繰り返す場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。
- ・ 本製品をUSB 2.0ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。USB 1.1用ケーブルでUSB 2.0ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生することがあります。USB 1.1ポートへ接続して使用する際もなるべく付属のUSB 2.0対応ケーブルをご使用ください。
- ・ 本製品のIEEE1394インターフェースとUSBインターフェースを両方同時に接続することはできません。
- ・ 本製品はバスパワーでは動作しません。ご使用の際は、必ず本製品のACコードをAC100Vのコンセントに接続して電源を供給してください。
- ・ 本製品のIEEE1394ポートはバスパワー出力には対応しておりません。本製品の後にIEEE1394機器を増設する場合は、増設側の機器がセルフパワーで電源を得られる物でなければなりません。
- ・ IEEE1394 はメーカーによって「FireWire」もしくは「i.LINK」などと呼ばれることがありますが、すべて同じものをさします。本書の中では「IEEE1394」で呼称を統一します。

使用環境について

本製品の使用環境は、接続形態により異なります。ご使用になる接続形態の項目をクリックしてください。

USB 接続の場合

IEEE1394 接続の場合

USB 接続の場合

製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべてUSBポートを搭載している機種に限定されます。また、High-Speedでの転送を実現するためにはパソコン本体のインターフェースがUSB 2.0に対応していなければなりません。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
アップルコンピュータ社	Mac mini
	eMac
	iBook、iBook G4
	iMac、iMac G5
	Power Mac G5
	Power Mac G4、Power Mac G4 Cube
	Power Macintosh G3 (Blue and White)
	PowerBook G4、PowerBook (FireWire)
	PowerBook G3 (BronzeKeyboard)

対応 OS

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 (Second Edition 含む)
Windows 2000 Professional

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.1 以降 ()
Mac OS 9.0.4 ~ 9.2.2 まで ()

USB2.0 接続にてご使用の場合は、Mac OS X 10.2 以降となります。

IEEE1394 接続の場合

製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべて IEEE1394 ポートを標準搭載している機種に限定されます。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
アップルコンピュータ社	Mac mini
	iMac G5、iMac (USB 2.0)
	iMac (Flat Panel)、iMac (Early 2001)
	iMac DV
	eMac
	Power Mac G5
	Power Mac G4、Power Mac G4 Cube
	iBook G4、iBook (Late 2001 以降)
	iBook (Dual USB)、iBook (FireWire)
	PowerBook G4
	PowerBook (FireWire)

対応 OS

本製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 Second Edition (1)
Windows 2000 Professional

1 IEEE1394 アップデータ要導入
Second Edition でない Windows 98 では使用できません。

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.1 以降
Mac OS 9.1 ~ 9.2.2 まで

フォーマット（初期化）について

ここではハードディスクのフォーマット方法について、ご使用のOS ごとにご説明いたします。
参照したいOS のボタンをクリックしてください。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

注意！

フォーマットを行うと、それまでにハードディスク内に保存されていたデータは、全て消去されます。大切なデータは、必ず、あらかじめバックアップを取っておいてください。

ポイント

本製品を Windows XP、2000 でご使用になる場合は、NTFS 形式で再フォーマットすることをお勧めします。NTFS は Windows 2000 から採用されたファイル形式で、データの信頼度が高く 4GB を超えるファイルを扱うことができます。ただし、NTFS 形式で再フォーマットした場合、Windows Me、98 ではご使用になれません。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Windows 環境でフォーマットを行う場合は、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面より実行します。

本製品を接続すると、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面が右のように表示されますので、ここで「フォーマット」ボタンをクリックしてください。

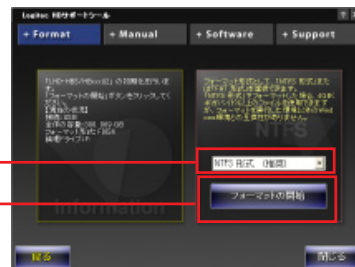
このボタンをクリック



実行の画面に切り替わりますので、「フォーマットの開始」ボタンをクリックすると、フォーマットが実行されます。

Windows XP、2000 の場合は、「NTFS 形式」を選択することをお勧めします。
なお、Windows Me、98 では表示されません。

「フォーマットの開始」をクリック



ポイント

「Logitech HD サポートツール」から、フォーマット用ソフトウェアをインストールして、フォーマットを行うこともできます。
フォーマット用ソフトウェアのインストール方法、使用方法については右のボタンをクリックしてください。

CD-ROM からフォーマットソフトをインストールする場合

CD-ROMからフォーマットソフトをインストールする場合

本オンラインガイドが収録されている「Logitec HD サポートディスク」には、ハードディスクを複数のパーティションに分けてフォーマットができる「Logitec ディスクフォーマッタ」が収録されています。

「Logitec ディスクフォーマッタ」のインストール方法、使用方法については、下の項目をクリックしてください。

[ディスクフォーマッタのインストール方法](#)

[ディスクフォーマッタの使い方](#)

参考

- ・ 各OSに標準搭載のフォーマット機能を使用してフォーマットを行う場合は、ご使用のOSのオンラインヘルプ等をご参照ください。

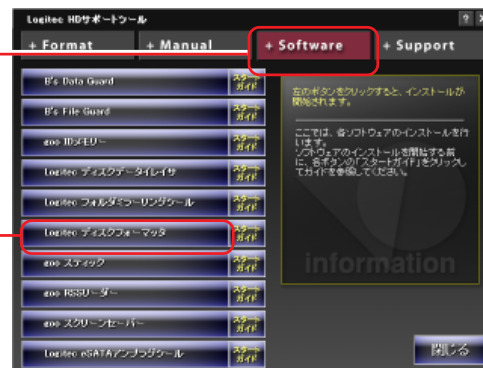
ディスクフォーマッタのインストール方法

「Logitech ディスクフォーマッタ」のインストールは、「Logitech HD サポートディスク」をパソコンにセットして自動起動する「Logitech HD サポートツール」の画面より、

「Software」タブを選択し、
ソフトウェアの一覧から、「Logitech ディスクフォーマッタ」のボタンをクリックしてください。

1. Software タブをクリック

2. 「Logitech ディスクフォーマッタ」
ボタンをクリック



自動的に、セットアップウィザードが起動しますので、この後はウィザードの指示に従ってインストールを進めてください。

ディスクフォーマッタの使い方

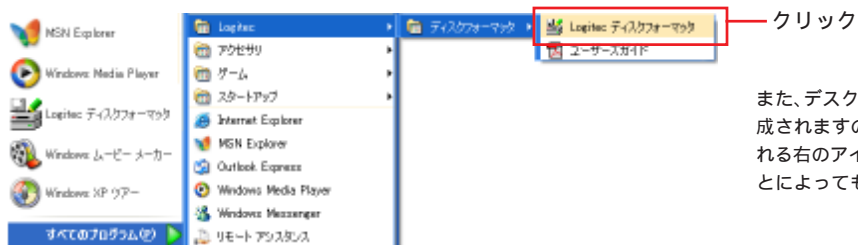
ハードディスクを複数のパーティションに分割して使用する場合、「Logitech ディスクフォーマッタ」を使用します。フォーマット手順は以下をご参照ください。

はじめに、本製品をパソコンに接続してください。

誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう、本製品以外の外付け型ハードディスクは全て取り外しておきます。また、内蔵のハードディスクが複数ある場合、誤ってフォーマットしないようあらかじめ、ドライブ名を確認して、フォーマットの際に選択しないようにしてください。

「Logitech ディスクフォーマッタ」を起動します。

「スタート」ボタンをクリックして表示されるメニューから、「(すべての)プログラム」 「Logitech」 「ディスクフォーマッタ」とポイントして、「Logitech ディスクフォーマッタ」をクリックしてください。(デフォルトの状態ではインストールした場合)



また、デスクトップにショートカットが作成されますので、デスクトップ上に表示される右のアイコンをダブルクリックすることによっても起動可能です。



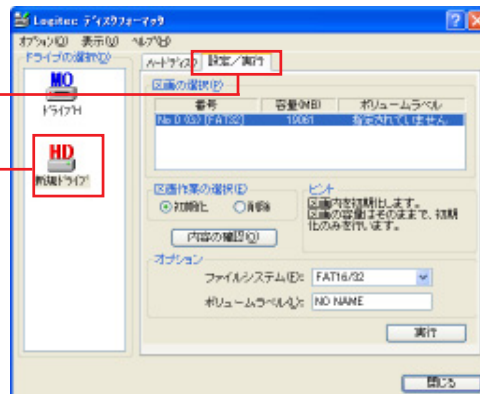
ポイント

- ・「Logitech ディスクフォーマッタ」の詳細な使用方法については、「Logitech ディスクフォーマッタ」の「ユーザーズガイド」をご参照ください。

フォーマッタが起動したら、「ドライブの選択」リストで、分割してフォーマットを行うハードディスクを選択して、「設定/実行」タブをクリックしてください。

1. 選択

2. クリック



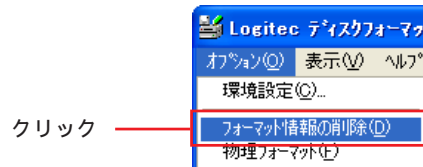
選択したハードディスクに関する情報が表示されます。

また、FAT32 ファイルシステムを使用したい場合は、「このドライブで FAT32 ファイルシステムを使用する」チェックボックスをチェックしてください。(このチェックボックスをチェックするためには、「オプション」メニューの「環境設定」で FAT32 ファイルシステムが使用できるように設定されていなければなりません。)

ご注意

- ・ 間違ったドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・ フォーマットを行うと、ハードディスクに保存されているデータはすべて消去され、復旧することはできません。フォーマット対象のハードディスク内にデータが残っている場合、重要なデータはあらかじめバックアップをとっておいてください。

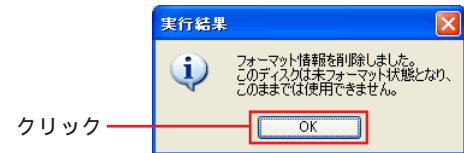
次にツールバーの「オプション」から「フォーマット情報の削除」をクリックしてください。



確認のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。

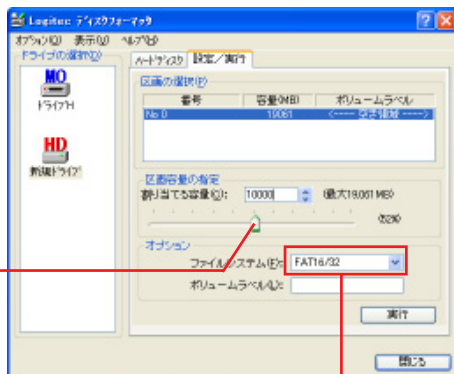


フォーマット情報の削除が行われ、終了すると以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻りますので「設定/実行」タブをクリックしてください。

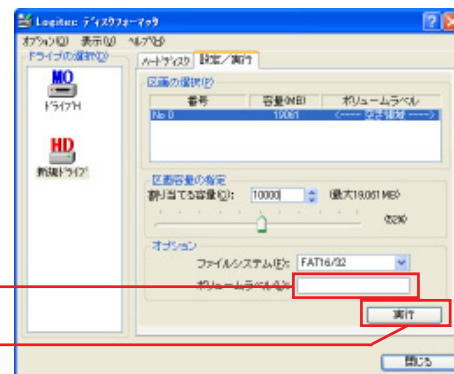
新規のハードディスクをフォーマットする場合は、すべての容量が「区画の選択」に「空き領域」として表示されます。ここからまず最初のドライブとなる区画の容量を指定します。「区画容量の指定」で「割り当てる容量」を入力するか、スライダをドラッグして容量を指定してください。



スライダ

Windows XP、2000をご使用の場合は、ここでファイルシステムを「NTFS」にすることをお勧めします。

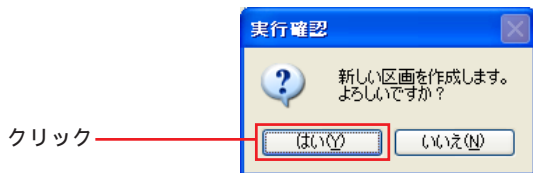
容量の指定が終了したら、最初のドライブとなる区画のフォーマットを行います。必要に応じて「ボリュームラベル」(ハードディスクの名前: 半角11文字以内/全角5文字以内の任意の文字列を入力可能)を入力し、「実行」ボタンをクリックしてください。



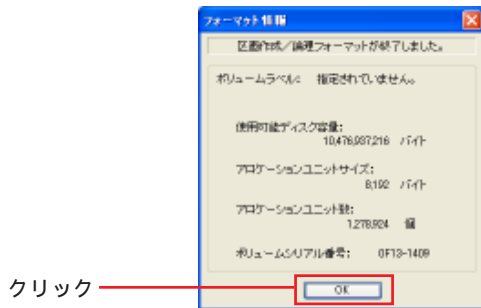
1. 入力

2. クリック

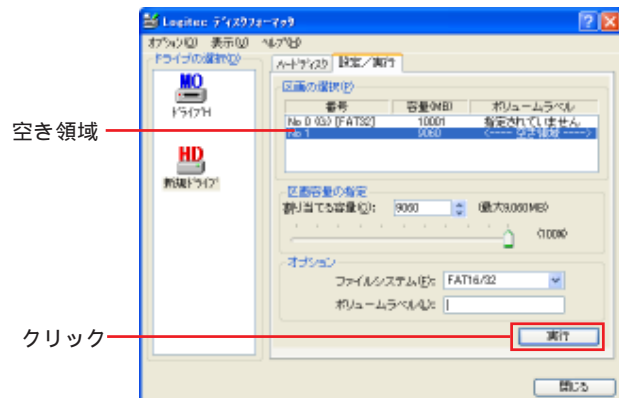
確認のメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいことを確認してから、「はい」ボタンをクリックしてください。



最初のドライブとなる区画のフォーマットが実行されます。終了すると、以下のウィンドウが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻ります。このドライブにはまだ「空き領域」が残っています。(下図の「区画の選択」の「No.1」を参照してください。)この空き領域は2番目のドライブとしてフォーマットすることができます。空き領域を2番目のドライブとしてすべてフォーマットする場合は、「区画容量の指定」は変更しないで、そのまま「実行」ボタンをクリックしてください。



もし、ハードディスクを3つ以上のドライブに分割する場合は、手順と同様に「区画容量の指定」で2番目のドライブの容量を指定してから、「実行」ボタンをクリックしてください。

～ と同じ手順で2番目のドライブのフォーマットを実行してください。
以上でフォーマットは終了です。

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

Macintosh 環境では、フォーマットは OS 標準の機能を使用します。
それぞれの OS のフォーマット手順は、下の項目をクリックしてご参照ください。

参照したい項目をクリックしてください。

Mac OS Xでのフォーマット方法

Mac OS 9でのフォーマット方法

ポイント

本製品を Macintosh 環境のみでご使用になる場合は、「Mac OS 拡張」形式にて再フォーマットすることをお勧めします。「Mac OS 拡張」形式は、大容量ハードディスクを Macintosh 環境で使用するのに最適なフォーマット形式です。ただし、「Mac OS 拡張」形式で再フォーマットした場合、Windows 環境からはアクセスできなくなります。

Mac OS Xでのフォーマット方法

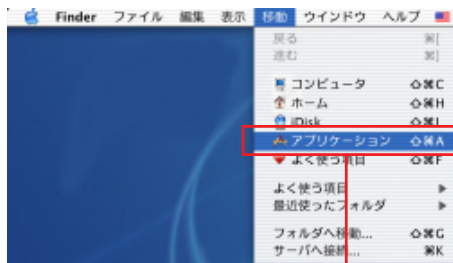
Mac OS Xでのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

フォーマット手順

ハードディスクのフォーマットにはMac OS X標準のフォーマットソフトウェア「ディスクユーティリティ (Disk Utility)」を使用します。

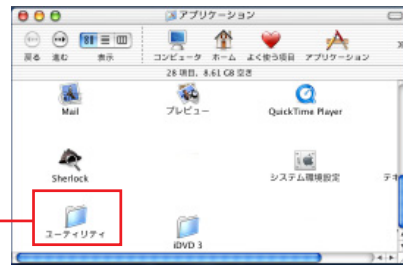
本製品をはじめて接続した際に、「今セットしたディスクはMac OS Xで読み込めないボリュームが含まれています。」というメッセージウィンドウが表示された場合は、ウィンドウ下部にある「初期化」ボタンをクリックして、手順へお進みください。

本製品を接続後、メニューバーの「移動」から「アプリケーション」を選択してください。



選択

「アプリケーション」ウィンドウが表示されます。ここで「ユーティリティ」フォルダをダブルクリックしてください。



ダブルクリック

「ユーティリティ」フォルダの一覧の中から、「ディスクユーティリティ」をダブルクリックしてください。



ダブルクリック

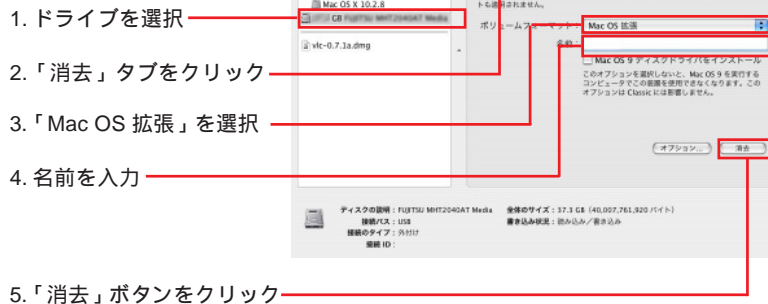
ディスクユーティリティ

ポイント

- Mac OS X 10.0.4 ~ 10.1.5 の環境では、フォルダ名やウィンドウ名に「Application」、「Utilities」等、一部アルファベットが使用されています。

Mac OS Xの標準フォーマット「ディスクユーティリティ」が起動します。以下のように設定してフォーマットを行ってください。

1. 本製品のドライブ名を選択
2. 「消去」タブを選択
3. ボリュームフォーマットの欄で「Mac OS 拡張」を選択
4. 「名前」の欄に、本製品の名前を入力。（本製品がデスクトップにマウントされる際、ここに入力した名前が表示されるようになります）
5. 「消去」ボタンをクリック



確認のメッセージウィンドウが表示されますので「消去」ボタンをクリックしてください。フォーマットが実行されます。

！次ページの注意事項を必ずご参照ください。

ご注意

- ・すでにご使用の他のドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・Mac OS 9環境でもご使用になる場合は、名前の下にある「Mac OS 9 ディスクドライバをインストール」のチェックボックスにチェックを入れてください。
(但し、このチェックボックスはMac OS Xのみ搭載モデルの場合、表示されない場合があります。)

ポイント

- ・フォーマットは「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧Macと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。

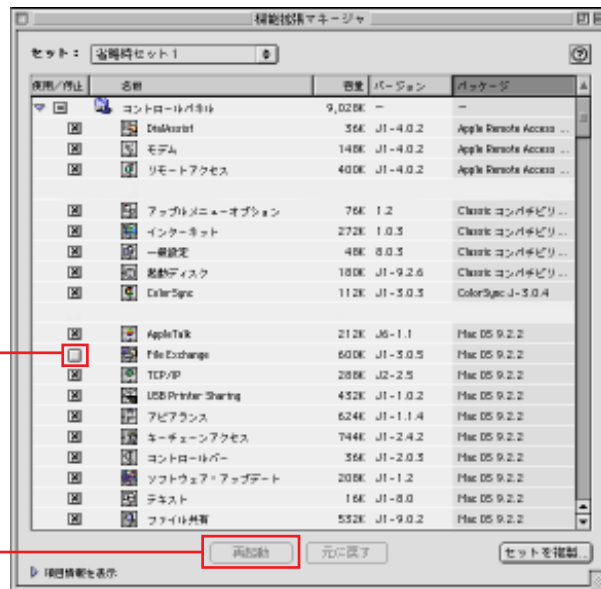
Mac OS 9でのフォーマット方法

Mac OS 9でのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

「アップル」メニューから「コントロールパネル」「機能拡張マネージャ」を開き、「File Exchange」を「停止」して、コンピュータを再起動してください。

1. このチェックをOFFにする事によって、機能が停止します

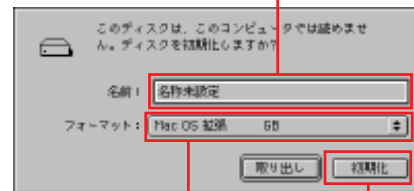
2. 「再起動」ボタンをクリック



パソコンが再起動後、本製品を接続すると「このディスクはこのコンピュータでは読めません。ディスクを初期化しますか?」というメッセージとともに初期化のウィンドウが表示されます。ここで、必要に応じて名前を入力し、フォーマット形式に「Mac OS 拡張」を選択し、「初期化」ボタンをクリックします。

「名前」を入力すると、本製品がデスクトップにマウントされる際、その名前が表示されるようになります。

1. 名前を入力



2. 「フォーマット形式」を選択

3. 「初期化」をクリック

初期化が終わったら、「File Exchange」を「ON」に戻しておきます。

ポイント

- ・ フォーマット形式は「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧バージョンのMac OSと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。
- ・ デスクトップ上の本製品のドライブアイコンをクリックし「特別」から「ディスクの初期化」をクリックしても、フォーマットを行うことは可能ですが、この方法で初期化を行う場合、「DOS (FAT32)」形式でフォーマットされているハードディスクはフォーマット形式の変更はできません。いったん、Mac OS 拡張でフォーマット後に、再フォーマットを行う場合などにご使用ください。

補足説明

ここでは、各シリーズや接続形態に固有の機能について補足説明をいたします。
参照したい項目をクリックしてください。

PC 電源連動機能について

Macintosh での起動ディスクの設定
(IEEE1394 接続時のみ)

IEEE1394 機器の増設について
(IEEE1394 接続時のみ)

PC 電源連動機能について

本製品はPC電源連動機能を搭載しています。

PC電源連動機能とは、パソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源のON/OFFを切り替える機能のことです。

いったん本製品の電源モードSWを「AUTO」にしてパソコンに接続すれば、後はパソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源もON/OFFされます。本製品の電源のON/OFFは下表のように切り替わります。

動作	電源モードスイッチ	
	AUTO時	ON時
起動中のパソコンに接続した時	ON	常にON
接続先のパソコンの電源をONにしたとき	ON	
接続先のパソコンがスリープや省電力モードから復帰したとき	ON	
IEEE 1394/USB ケーブルを外したとき	OFF	
パソコンがシャットダウンしたとき	OFF	
パソコンがスリープや省電力モードになったとき	OFF	

注意！

- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。

Macintosh での起動ディスクの設定 (IEEE1394 接続時のみ)

Macintosh 環境で IEEE1394 接続にてご使用の場合、本製品を起動ディスクとして使用することができます。ここではその設定方法についてご説明いたします。

起動ディスクとして使用可能な OS

- ・Mac OS X 10.1 以降

Mac OS 9.1 ~ 9.2.2 までの環境で本製品を起動ディスクとして使用することはできません。

以下のモデルではパソコン側の仕様上の制限により起動ディスクに設定することができません。

- ・ Power Mac G4 (PCI Graphics)

以下のモデルで起動ディスクとして使用する場合、パソコン本体のファームウェアのバージョンを「2.4」以上にする必要があります。詳細は、アップルコンピュータ社の Web サイトをご参照ください。

- ・ iMac DV
- ・ Power Mac G4 (AGP Graphics)
- ・ PowerBook (FireWire)

設定方法

Mac OS X の場合

アップルメニューから「システム環境設定」を選択し「起動ディスク」をダブルクリックして開いてください。

本製品のシステムフォルダをクリックして選択状態にして、「再起動」ボタンをクリックしてください。

注意事項

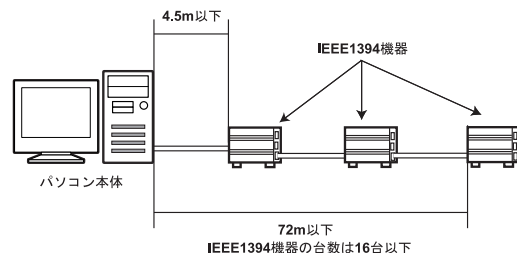
- ・ インストールの際は必ずハードディスクを Mac OS 拡張にてフォーマットしてください。本製品の出荷時フォーマットである「DOS」フォーマットや「Mac OS 標準」フォーマットではシステムが正しく起動しない場合があります。これらのフォーマットでの使用はサポート対象外とさせていただきます。
- ・ 本製品を起動ディスクに設定する場合は、必ず Mac OS X のインストール CD-ROM から本製品へシステムをインストールしてください。他の起動ディスクからシステムのコピーを行った場合、本製品を起動ディスクとしてご使用になれません。
- ・ システム起動中に絶対に IEEE1394 ケーブルまたは AC コードを抜かないでください。
- ・ 本製品からのシステム起動中はスリープ機能には対応いたしません。
- ・ 起動ディスクに設定する場合は、電源モードスイッチを「ON」に設定してください。

IEEE1394 機器の増設について (IEEE1394 接続時のみ)

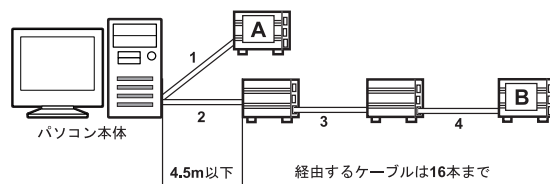
IEEE1394 コネクタが複数装備されている IEEE1394 機器は、パソコンとの接続に使用していないコネクタを使って IEEE1394 機器の数珠繋ぎによる増設 (デージーチェーン型) を行うことができます。

IEEE1394 機器は、数珠繋ぎによる増設 (デージーチェーン型) と、接続を分岐させる増設 (ツリー方) の 2 つの方法で、機器を増設することができます。

- デージーチェーン型では、1本のケーブルの長さは最大 4.5m まで、ケーブル長の合計は最大 72m までに制限されます。また IEEE1394 機器の台数は 16 台以下 (パソコン本体を含まない) に制限されます。

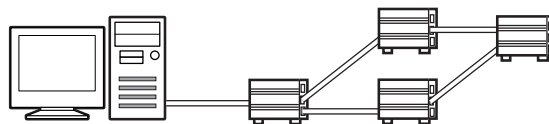


- ツリー型では、1本のケーブルの長さは4.5mまで、IEEE1394 機器間で経路できるケーブルの本数に最大 16 本という制限があります。接続台数は 62 台以下 (パソコン本体を含まない) ですが、Windows 環境ではストレージ機器の台数はドライブ文字の限界 (A: ~ Z: でシステムが使用していないもの) に制限されます。



ツリー型で増設する場合の注意

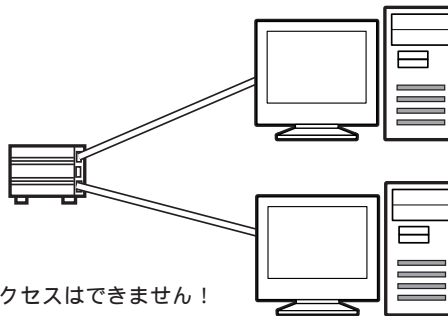
ツリー型で増設を行う場合、接続中にループ（たどってゆくと元に戻ってしまう接続）があってははいけません。



どれか1本のケーブルを外せばループが解消されるのでOKです。

その他の注意

複数のパソコンが1台のIEEE1394機器を同時に使用することはできません。



同時にアクセスはできません！

故障かな？と思ったら

Q

本製品を接続したが認識されない。

A

ケーブルは正しく接続されていますか？

パソコン側、本製品側共に正しく差し込まれているかを確認してください。

A

本製品をハブ経由で接続していませんか？

その場合は、パソコンのポートに本製品だけを直接接続して試してみてください。

ご使用の製品がバスパワー対応の場合、ハブから電源供給量だけでは、本製品が使用できない場合があります。また、USB接続の場合は、バッテリー駆動時にUSBポートからの電源供給を行わない機種もあります。



本製品を接続したが認識されない(続き)



特定のOSで認識されない場合、フォーマット形式が、そのOSでは対応していない可能性があります。

本製品を再フォーマットした場合、フォーマット形式が、ご使用のOSに合ったものであるかをご確認ください。

フォーマット形式 (ファイルシステム)	本製品の対応OSでの制限事項
NTFS	Windows XP、2000 で使用するためのフォーマット形式です。 Mac OS X 10.3 以降では読み込みのみサポートしています。 Windows Me、98、Mac OS 9.1 ～ 9.2.2、Mac OS X 10.0.4 ～ 10.2.8 環境では認識されません。
FAT 32	Windows 環境では全て認識されます。 Mac OS X 10.0.4 ～ 10.1.5では認識されません。 Mac OS X 10.2以降の場合、ハードディスクの容量が120 GBを超えると、容量制限の問題から認識されません。 Mac OS 9環境では、File Exchange が必要です。
HFS /HFS + (Mac OS 標準 /Mac OS 拡張)	Mac OS 専用のフォーマット形式です。 Macintosh環境で、このフォーマット形式でフォーマットした場合、Windows環境では認識されなくなります。

Q 本製品から、システム起動ができない。

A ご使用の OS および、接続形態をご確認ください。

本製品は Mac OS X 10.1 以降の環境で IEEE1394 接続時の場合以外は、システムを起動することはできません。また、上記の環境でご使用の場合も、起動ディスクに設定するには、いくつか条件がございます。詳しくは「Macintosh での起動ディスクの設定」をご参照ください。

Q Windows XP,2000 で「ディスクの管理」が起動できない。

A 管理者権限のあるユーザーとしてログオンしていますか？

「ディスクの管理」を起動するには、管理者権限を持つユーザー（例えば「コンピュータの管理者」や「Administrator」）としてログオンしていなければなりません。

Q スリープ状態から復帰できない。

A パソコンのスリープ（サスペンド）状態の処理方法によりこのような現象が発生する場合があります。ご使用のパソコンによっては、パソコン本体メーカーから供給されるアップデートプログラムなどによりこの現象を回避できる場合もあります。スリープ状態から復帰できない場合は、スリープ（サスペンド）機能を OFF にしてご使用ください。

Q 本製品の物理フォーマットができない。

A 本製品は物理フォーマットをサポートしていません。論理フォーマット（通常のフォーマット）のみでご使用ください。

Q USB 接続時にデータの転送速度が遅い。

A USB 2.0 のポートに正しく接続されていますか。

USB 1.1 のポートに接続されている場合、データの転送速度は Full-Speed(12Mbps) までとなります。High-Speed (480Mbps) でデータ転送を行うには USB 2.0 ポートに接続してください。

パソコン本体に USB 2.0 ポートがない場合は別売りの USB 2.0 インターフェースボード (PCI 用インターフェースボード、もしくは CardBus 対応 USB 2.0 インターフェースカード) をご使用ください。

Q Macintosh 環境に USB 接続で使用していますが、スリープ状態から復帰した際に、取り外されたようなメッセージが表示されます。

A Macintosh 環境に USB 接続した場合、上記のような症状が再現されます。取り外されたようなメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。そのまま問題なくご使用いただけます。

このメッセージは、IEEE1394 接続をしている場合は表示されません。

オプション品について

弊社ではインターフェースボードやケーブルなどを別売品として取り扱っております。オプション品のお求めは、お買い求めいただいた販売店またはロジテックの安心オンラインショップ「ロジテックダイレクト」にてお求めください。

ロジテックダイレクトホームページ

<http://www.logitech-direct.jp>

PCIバス用USB 2.0インターフェースボード

型番	バス	備考
LHA-USB2VA	PCI	インターフェースボード単体 Windows XP,Me,98,2000対応

CardBus対応USB 2.0インターフェースカード

型番	バス	備考
LPM-CBUSB2HB	CardBus	インターフェースカード単体 Windows,Mac OS X 10.3以降対応

USB 2.0 High-Speed 対応ケーブル

型番	長さ	備考
CB-USB2AMB-010	1.0m	シリーズA-mini B

IEEE1394 ケーブル

型番	長さ	備考
CB-I66-021S	2.1m	6ピン-6ピン
CB-I66-011S	1.1m	
CB-I66-006S	0.6m	
CB-I64-021S	2.1m	6ピン-4ピン
CB-I64-011S	1.1m	
CB-I64-006S	0.6m	

ハードウェア仕様

機種名			LHD- HBU2シリーズ	LHD- HBFU2 シリーズ
インターフェース			USB 2.0 High- Speed (USB 1.1 互換)	IEEE 1394 USB 2.0 High- Speed (USB 1.1 互換)
ディスク回転数			7200 rpm	7200 rpm
最大データ 転送速度 *1			480 Mbps (USB High- Speed) 12 Mbps (USB Full- Speed)	400 Mbps (IEEE 1394) 480 Mbps (USB High- Speed) 12 Mbps (USB Full- Speed)
コネクタ形状			USB mini-B	IEEE 1394 6 ピン × 1 IEEE 1394 4 ピン × 1 USB mini-B × 1
環境条件 *2	動作時	温度	5 ~ 35	5 ~ 35
		相対湿度	20% ~ 80%	20% ~ 80%
	保管時	温度	- 20 ~ 50	- 20 ~ 50
		相対湿度	20% ~ 80%	20% ~ 80%
入力電圧			AC 100 V ± 10 % 50/60 Hz	AC 100 V ± 10 % 50/60 Hz
消費電力 (定格)			15.5 W (LHD- HB750U2) 15W (LHD- HB500U2) 13W (LHD- HB400U2) 13W (LHD- HB300U2) 12W (LHD- HB250U2)	15.5 W (LHD- HB750FU2) 16W (LHD- HB500FU2) 13W (LHD- HB400FU2) 13W (LHD- HB300FU2) 12.5W (LHD- HB250FU2)
外形寸法 幅 × 奥行き × 高さ *3			46 × 220 × 169 mm	46 × 220 × 169 mm
重量			2.0 kg	2.0 kg

*1 理論値

*2 ただし結露なきこと

*3 本体のみ

記憶容量については、製品のパッケージをご覧ください。

保証とサービスについて

製品には、保証書が添付されています。

保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししています。記載内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間は保証書に記載されています。お買い上げ日より有効です。

サービスを依頼される場合

修理品については、弊社サービス窓口にお送りいただくか、お求めいただいた販売店へご相談ください。
故障かどうか判断がつかない場合は、事前に下記弊社テクニカルサポートにお問い合わせください。

弊社サービス窓口およびテクニカルサポートの連絡先については、**次ページの「ユーザーサポート窓口のご案内」**をご参照ください

保証期間中の修理につきましては、保証規定に従い修理いたします。

保証期間終了後の修理につきましては、「テクニカルサポートセンター」までご連絡ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理させていただきます。(修理に代わって同等品と交換させていただく事があります)なお、補修用性能部品(製品の機能を維持するための部品)の最低保有期間は、製品終息後5年間です。

ユーザーサポート窓口のご案内

製品に対する技術的な質問や、取扱説明書に対するお問い合わせ

お問い合わせの際に次の ~ の内容をご確認の上、弊社「テクニカルサポート」までお問い合わせください。

現在の状態（できるだけ詳しく）

製品の名称/シリアル番号（保証書に記載されています）

ご購入年月日、ご購入先

テクニカルサポート連絡先（ナビダイヤル）

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8 2 6 8 ロジテック株式会社 テクニカルサポート

TEL. 0570-022-022 FAX. 0570-033-034

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～18：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）

携帯電話（FAX）、PHS（TEL、FAX共）、ひかり（光）電話（TEL、FAX共）、IP電話（TEL、FAX共）はご利用になれません。

郵送または宅配便にて修理依頼される場合のお願い

- ・ 送料および、梱包費用は保証期間の有無を問わずお客様のご負担になります。
- ・ 保証期間中の場合は、保証書を商品に添付してください。
- ・ 必ず、「お客様のご連絡先（ご住所/電話番号）」「故障の状態」を書面にて添付してください。
- ・ 保証期間経過後の修理については、お見積りもりの必要の有無、または修理限度額および連絡先を明示のうえ、製品に添付してください。
- ・ ご送付の際は、緩衝材に包んでダンボール箱（本製品の梱包箱、梱包材を推奨します）等に入れて、お送りください。

修理品送付先

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8268

ロジテック（株）修理サポートセンター（3番受入窓口）

TEL：0265-74-1423 FAX：0265-74-1403

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～17：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）

外付け型 HDユニット オンラインガイド

このたびは弊社製外付け型HDユニットをお求めいただきまことにありがとうございました。
このオンラインガイドでは、ハードディスクのフォーマット方法をはじめ、製品の取り扱い方法についてガイドしています。
下のボタンから、ご参照になりたい項目をクリックしてください。

使用上のご注意

故障かな？と思ったら

使用環境について

オプション品について

フォーマット（初期化）について

ハードウェア仕様

「i-Dial」の使用について

保証とサービスについて

補足説明

LHD-HBU2,HBSU2 シリーズをご使用の場合

- ・ ご使用のパソコンの仕様によっては、PC 電源連動機能が正常に動作しない場合があります。その場合は背面の電源スイッチにて電源の ON/OFF を切り替えてください。
- ・ 動作中のケーブルの抜き差しは絶対に行わないでください。不要なリセットや動作異常を招き、データが消失する恐れがあります。
- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。
- ・ 本製品を接続した状態でパソコンを起動する際、PC 電源連動機能により、本製品の電源が ON/OFF を繰り返す場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。
- ・ 本製品を USB 2.0 ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。USB 1.1 用ケーブルで USB 2.0 ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生することがあります。USB 1.1 ポートへ接続して使用する際もなるべく付属の USB 2.0 対応ケーブルをご使用ください。
- ・ 本製品はバスパワーでは動作しません。ご使用の際は、必ず本製品の AC コードを AC100V のコンセントに接続して電源を供給してください。

LHD-HBFU2,HBSFU2 シリーズをご使用の場合

- ・ ご使用のパソコンの仕様によっては、PC電源連動機能が正常に動作しない場合があります。その場合は背面の電源スイッチにて電源のON/OFFを切り替えてください。
- ・ 動作中のケーブルの抜き差しは絶対に行わないでください。不要なリセットや動作異常を招き、データが消失する恐れがあります。
- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。
- ・ 本製品を接続した状態でパソコンを起動する際、PC電源連動機能により、本製品の電源がON/OFFを繰り返す場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。
- ・ 本製品をUSB 2.0ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。USB 1.1用ケーブルでUSB 2.0ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生することがあります。USB 1.1ポートへ接続して使用する際もなるべく付属のUSB 2.0対応ケーブルをご使用ください。
- ・ 本製品のIEEE1394インターフェースとUSBインターフェースを両方同時に接続することはできません。
- ・ 本製品はバスパワーでは動作しません。ご使用の際は、必ず本製品のACコードをAC100Vのコンセントに接続して電源を供給してください。
- ・ 本製品のIEEE1394ポートはバスパワー出力には対応しておりません。本製品の後にIEEE1394機器を増設する場合は、増設側の機器がセルフパワーで電源を得られる物でなければなりません。
- ・ IEEE1394 はメーカーによって「FireWire」もしくは「i.LINK」などと呼ばれることがありますが、すべて同じものをさします。本書の中では「IEEE1394」で呼称を統一します。

使用環境について

本製品の使用環境は、接続形態により異なります。ご使用になる接続形態の項目をクリックしてください。

USB 接続の場合

IEEE1394 接続の場合

USB 接続の場合

製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべてUSBポートを搭載している機種に限定されます。また、High-Speedでの転送を実現するためにはパソコン本体のインターフェースがUSB 2.0に対応していなければなりません。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
アップルコンピュータ社	Mac mini
	eMac
	iBook、iBook G4
	iMac、iMac G5
	Power Mac G5
	Power Mac G4、Power Mac G4 Cube
	Power Macintosh G3 (Blue and White)
	PowerBook G4、PowerBook (FireWire)
	PowerBook G3 (BronzeKeyboard)

対応 OS

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 (Second Edition 含む)
Windows 2000 Professional

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.1 以降 ()
Mac OS 9.0.4 ~ 9.2.2 まで ()

USB2.0 接続にてご使用の場合は、Mac OS X 10.2 以降となります。

IEEE1394 接続の場合

製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべて IEEE1394 ポートを標準搭載している機種に限定されます。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
アップルコンピュータ社	Mac mini
	iMac G5、iMac (USB 2.0)
	iMac (Flat Panel)、iMac (Early 2001)
	iMac DV
	eMac
	Power Mac G5
	Power Mac G4、Power Mac G4 Cube
	iBook G4、iBook (Late 2001 以降)
	iBook (Dual USB)、iBook (FireWire)
	PowerBook G4
	PowerBook (FireWire)

対応 OS

本製品を IEEE1394 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 Second Edition (1)
Windows 2000 Professional

1 IEEE1394 アップデータ要導入
Second Edition でない Windows 98 では使用できません。

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.1 以降
Mac OS 9.1 ~ 9.2.2 まで

フォーマット（初期化）について

ここではハードディスクのフォーマット方法について、ご使用の OS ごとにご説明いたします。
参照したい OS のボタンをクリックしてください。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

注意！

フォーマットを行うと、それまでにハードディスク内に保存されていたデータは、全て消去されます。大切なデータは、必ず、あらかじめバックアップを取っておいてください。

ポイント

本製品を Windows XP、2000 でご使用になる場合は、NTFS 形式で再フォーマットすることをお勧めします。NTFS は Windows 2000 から採用されたファイル形式で、データの信頼度が高く 4GB を超えるファイルを扱うことができます。ただし、NTFS 形式で再フォーマットした場合、Windows Me、98 ではご使用になれません。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Windows 環境でフォーマットを行う場合は、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面より実行します。

本製品を接続すると、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面が右のように表示されますので、ここで「フォーマット」ボタンをクリックしてください。

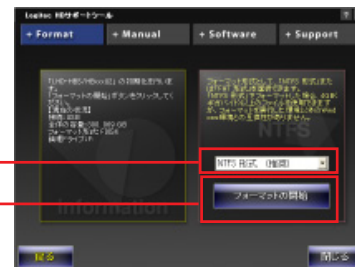
このボタンをクリック



実行の画面に切り替わりますので、「フォーマットの開始」ボタンをクリックすると、フォーマットが実行されます。

Windows XP、2000 の場合は、「NTFS 形式」を選択することをお勧めします。
なお、Windows Me、98 では表示されません。

「フォーマットの開始」をクリック



ポイント

「Logitech HD サポートツール」から、フォーマット用ソフトウェアをインストールして、フォーマットを行うこともできます。
フォーマット用ソフトウェアのインストール方法、使用方法については右のボタンをクリックしてください。

CD-ROM からフォーマットソフトをインストールする場合

CD-ROMからフォーマットソフトをインストールする場合

本オンラインガイドが収録されている「Logitec HD サポートディスク」には、ハードディスクを複数のパーティションに分けてフォーマットができる「Logitec ディスクフォーマッタ」が収録されています。

「Logitec ディスクフォーマッタ」のインストール方法、使用方法については、下の項目をクリックしてください。

[ディスクフォーマッタのインストール方法](#)

[ディスクフォーマッタの使い方](#)

参考

- ・ 各OSに標準搭載のフォーマット機能を使用してフォーマットを行う場合は、ご使用のOSのオンラインヘルプ等をご参照ください。

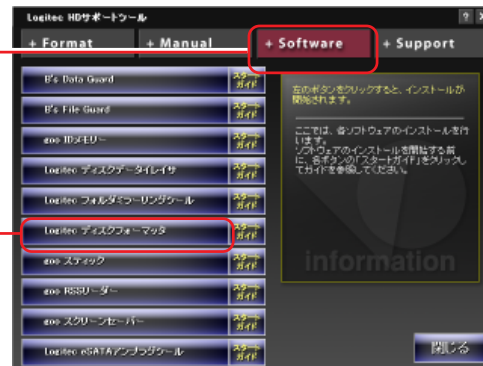
ディスクフォーマッタのインストール方法

「Logitech ディスクフォーマッタ」のインストールは、「Logitech HD サポートディスク」をパソコンにセットして自動起動する「Logitech HD サポートツール」の画面より、

「Software」タブを選択し、
ソフトウェアの一覧から、「Logitech ディスクフォーマッタ」のボタンをクリックしてください。

1. Software タブをクリック

2. 「Logitech ディスクフォーマッタ」
ボタンをクリック



自動的に、セットアップウィザードが起動しますので、この後はウィザードの指示に従ってインストールを進めてください。

ディスクフォーマッタの使い方

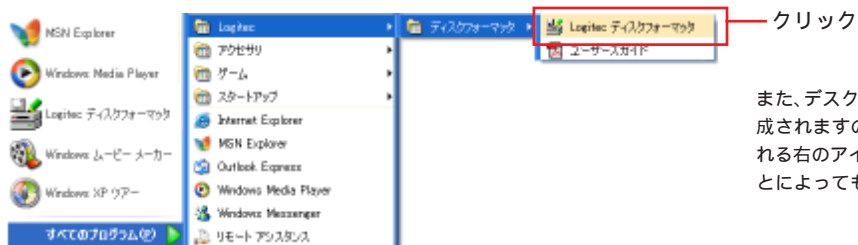
ハードディスクを複数のパーティションに分割して使用する場合、「Logitec ディスクフォーマッタ」を使用します。フォーマット手順は以下をご参照ください。

はじめに、本製品をパソコンに接続してください。

誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう、本製品以外の外付け型ハードディスクは全て取り外しておきます。また、内蔵のハードディスクが複数ある場合、誤ってフォーマットしないようあらかじめ、ドライブ名を確認して、フォーマットの際に選択しないようにしてください。

「Logitec ディスクフォーマッタ」を起動します。

「スタート」ボタンをクリックして表示されるメニューから、「(すべての)プログラム」 「Logitec」 「ディスクフォーマッタ」とポイントして、「Logitec ディスクフォーマッタ」をクリックしてください。(デフォルトの状態ですべてインストールした場合)



また、デスクトップにショートカットが作成されますので、デスクトップ上に表示される右のアイコンをダブルクリックすることによっても起動可能です。



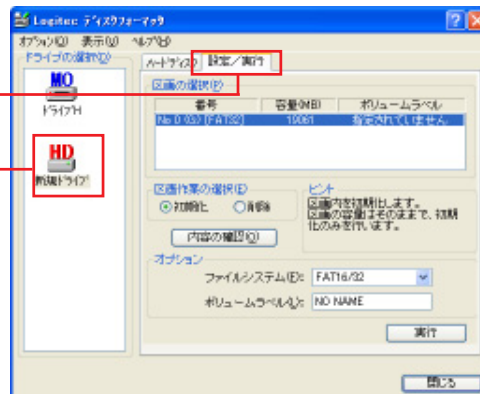
ポイント

- ・「Logitec ディスクフォーマッタ」の詳細な使用方法については、「Logitec ディスクフォーマッタ」の「ユーザーズガイド」をご参照ください。

フォーマッタが起動したら、「ドライブの選択」リストで、分割してフォーマットを行うハードディスクを選択して、「設定/実行」タブをクリックしてください。

1. 選択

2. クリック



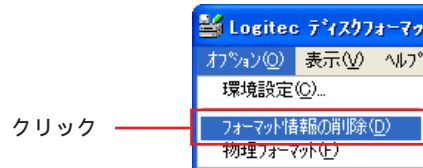
選択したハードディスクに関する情報が表示されます。

また、FAT32 ファイルシステムを使用したい場合は、「このドライブでFAT32 ファイルシステムを使用する」チェックボックスをチェックしてください。(このチェックボックスをチェックするためには、「オプション」メニューの「環境設定」でFAT32 ファイルシステムが使用できるように設定されていなければなりません。)

ご注意

- ・ 間違ったドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・ フォーマットを行うと、ハードディスクに保存されているデータはすべて消去され、復旧することはできません。フォーマット対象のハードディスク内にデータが残っている場合、重要なデータはあらかじめバックアップをとっておいてください。

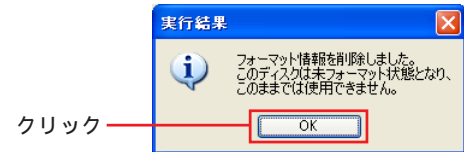
次にツールバーの「オプション」から「フォーマット情報の削除」をクリックしてください。



確認のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。

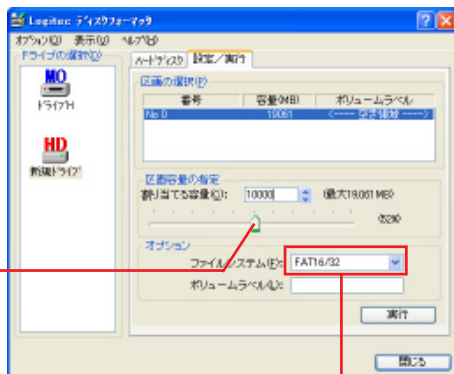


フォーマット情報の削除が行われ、終了すると以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻りますので「設定/実行」タブをクリックしてください。

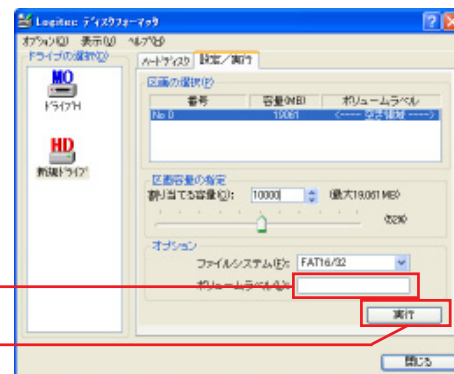
新規のハードディスクをフォーマットする場合は、すべての容量が「区画の選択」に「空き領域」として表示されます。ここからまず最初のドライブとなる区画の容量を指定します。「区画容量の指定」で「割り当てる容量」を入力するか、スライダをドラッグして容量を指定してください。



スライダ

Windows XP、2000をご使用の場合は、ここでファイルシステムを「NTFS」にすることをお勧めします。

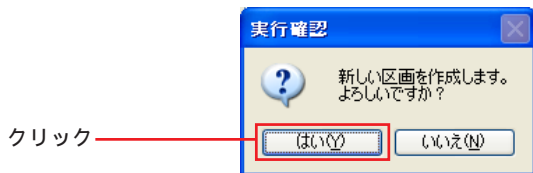
容量の指定が終了したら、最初のドライブとなる区画のフォーマットを行います。必要に応じて「ボリュームラベル」(ハードディスクの名前: 半角11文字以内/全角5文字以内の任意の文字列を入力可能)を入力し、「実行」ボタンをクリックしてください。



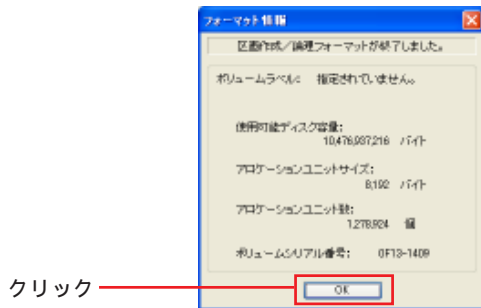
1. 入力

2. クリック

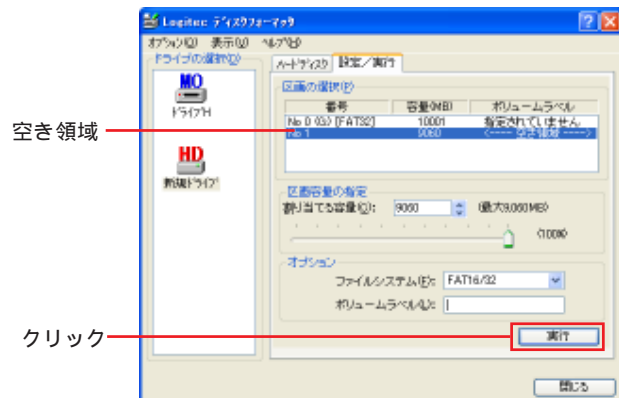
確認のメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいことを確認してから、「はい」ボタンをクリックしてください。



最初のドライブとなる区画のフォーマットが実行されます。終了すると、以下のウィンドウが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻ります。このドライブにはまだ「空き領域」が残っています。(下図の「区画の選択」の「No.1」を参照してください。)この空き領域は2番目のドライブとしてフォーマットすることができます。空き領域を2番目のドライブとしてすべてフォーマットする場合は、「区画容量の指定」は変更しないで、そのまま「実行」ボタンをクリックしてください。



もし、ハードディスクを3つ以上のドライブに分割する場合は、手順と同様に「区画容量の指定」で2番目のドライブの容量を指定してから、「実行」ボタンをクリックしてください。

～と同じ手順で2番目のドライブのフォーマットを実行してください。
以上でフォーマットは終了です。

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

Macintosh 環境では、フォーマットは OS 標準の機能を使用します。
それぞれの OS のフォーマット手順は、下の項目をクリックしてご参照ください。

参照したい項目をクリックしてください。

Mac OS Xでのフォーマット方法

Mac OS 9でのフォーマット方法

ポイント

本製品を Macintosh 環境のみでご使用になる場合は、「Mac OS 拡張」形式にて再フォーマットすることをお勧めします。「Mac OS 拡張」形式は、大容量ハードディスクを Macintosh 環境で使用するのに最適なフォーマット形式です。ただし、「Mac OS 拡張」形式で再フォーマットした場合、Windows 環境からはアクセスできなくなります。

Mac OS Xでのフォーマット方法

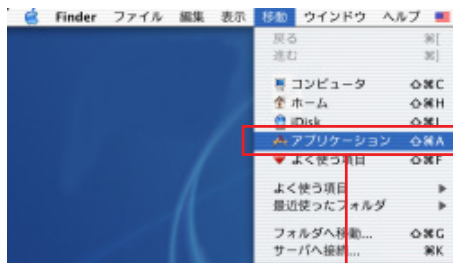
Mac OS Xでのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

フォーマット手順

ハードディスクのフォーマットにはMac OS X標準のフォーマットソフトウェア「ディスクユーティリティ (Disk Utility)」を使用します。

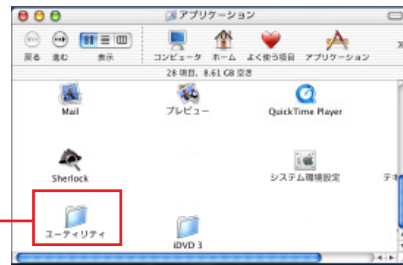
本製品をはじめて接続した際に、「今セットしたディスクはMac OS Xで読み込めないボリュームが含まれています。」というメッセージウィンドウが表示された場合は、ウィンドウ下部にある「初期化」ボタンをクリックして、手順へお進みください。

本製品を接続後、メニューバーの「移動」から「アプリケーション」を選択してください。



選択

「アプリケーション」ウィンドウが表示されます。ここで「ユーティリティ」フォルダをダブルクリックしてください。



ダブルクリック

「ユーティリティ」フォルダの一覧の中から、「ディスクユーティリティ」をダブルクリックしてください。



ダブルクリック

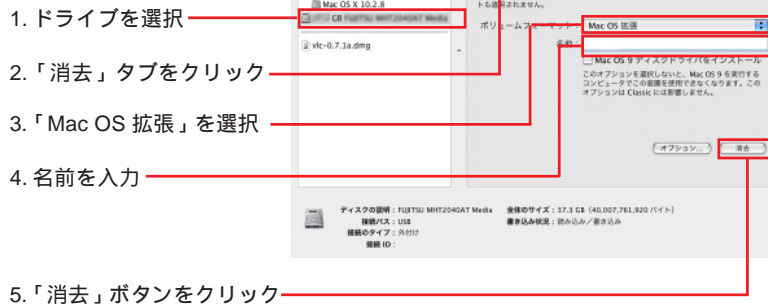
ディスクユーティリティ

ポイント

- Mac OS X 10.0.4 ~ 10.1.5 の環境では、フォルダ名やウィンドウ名に「Application」、「Utilities」等、一部アルファベットが使用されています。

Mac OS Xの標準フォーマット「ディスクユーティリティ」が起動します。以下のように設定してフォーマットを行ってください。

1. 本製品のドライブ名を選択
2. 「消去」タブを選択
3. ボリュームフォーマットの欄で「Mac OS 拡張」を選択
4. 「名前」の欄に、本製品の名前を入力。（本製品がデスクトップにマウントされる際、ここに入力した名前が表示されるようになります）
5. 「消去」ボタンをクリック



確認のメッセージウィンドウが表示されますので「消去」ボタンをクリックしてください。フォーマットが実行されます。

！次ページの注意事項を必ずご参照ください。

ご注意

- ・すでにご使用の他のドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・Mac OS 9環境でもご使用になる場合は、名前の下にある「Mac OS 9 ディスクドライバをインストール」のチェックボックスにチェックを入れてください。
(但し、このチェックボックスはMac OS Xのみ搭載モデルの場合、表示されない場合があります。)

ポイント

- ・フォーマットは「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧Macと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。

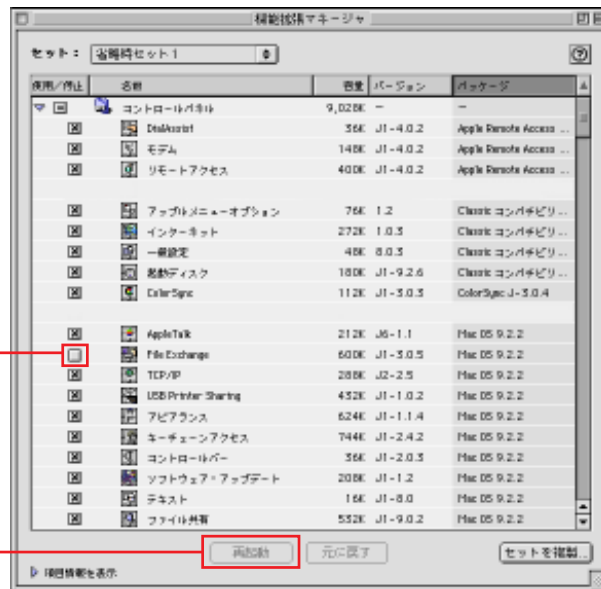
Mac OS 9でのフォーマット方法

Mac OS 9でのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

「アップル」メニューから「コントロールパネル」「機能拡張マネージャ」を開き、「File Exchange」を「停止」して、コンピュータを再起動してください。

1. このチェックをOFFにする事によって、機能が停止します

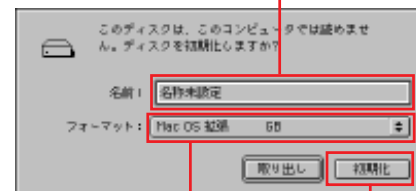
2. 「再起動」ボタンをクリック



パソコンが再起動後、本製品を接続すると「このディスクはこのコンピュータでは読めません。ディスクを初期化しますか?」というメッセージとともに初期化のウィンドウが表示されます。ここで、必要に応じて名前を入力し、フォーマット形式に「Mac OS 拡張」を選択し、「初期化」ボタンをクリックします。

「名前」を入力すると、本製品がデスクトップにマウントされる際、その名前が表示されるようになります。

1. 名前を入力



2. 「フォーマット形式」を選択

3. 「初期化」をクリック

初期化が終わったら、「File Exchange」を「ON」に戻しておきます。

ポイント

- ・ フォーマット形式は「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧バージョンのMac OSと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。
- ・ デスクトップ上の本製品のドライブアイコンをクリックし「特別」から「ディスクの初期化」をクリックしても、フォーマットを行うことは可能ですが、この方法で初期化を行う場合、「DOS (FAT32)」形式でフォーマットされているハードディスクはフォーマット形式の変更はできません。いったん、Mac OS 拡張でフォーマット後に、再フォーマットを行う場合などにご使用ください。

「i-Dial」の使用について

ここでは本製品搭載の「i-Dial(アイ-ダイヤル)」の使用方法についてご説明いたします。参照したいトピックをクリックしてください。

パスワードの新規設定

ロックを解除する

パスワードを変更する

パスワードの無効化(削除)

ライトプロテクトモード

サイレントモード

パスワードの新規設定

パスワードの新規設定は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- 1 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- 2 アクセランプが緑色の点滅からオレンジ色の点灯に変わり、文字表示窓に“P”と表示されたら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字表示窓には“0”と表示されます。



- 3 設定したいパスワードをダイヤルボタンを操作して入力します。
ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0~9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。パスワードを“2222”に設定したい場合は、次のように操作します。

パスワードの入力



ダイヤルボタンを回します → 入力したい数字が表示されます → ダイヤルボタンを押します → 1桁目を示すマークが表示されます。 → 0が表示されると、入力は完了です。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

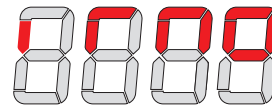
参考

パスワードの新規設定は、パソコンに接続した状態で、専用のユーティリティから行うことも可能です。
(Windows XP, 2000のみ)
詳しくは、付属CD-ROMの中の説明ファイルをご参照ください。
フォルダ名: ¥PWUTY
ファイル名: PWUTY.html



本製品を起動ディスクとしてご使用になる場合は、パスワードを設定してご使用になることはできません。

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



1桁目 2桁目 3桁目 4桁目

2桁目以降を入力するときには、0~9の数字のほかに“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

④ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押す。

⑤ 文字表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、確認のためにもう一度パスワードを入力します。操作は手順3を参照してください。



⑥ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0.”（小さいドット付き0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押す。

⑦ アクセランプが緑色に変われば、パスワードの設定は完了です。

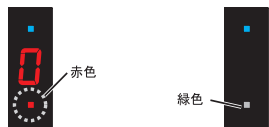
1回目と2回目のパスワードが異なると、初期画面に戻ります。手順2からやり直してください。

2回目の入力中は、文字表示窓に“.”が常に表示されています。

ロックを解除する

パスワードが設定された状態では、パソコンに接続する際に登録したパスワードを入力してロックを解除する必要があります。ロックを解除しないと、本製品はOSに認識されません。ロックの解除は、次の手順でおこないます。

パスワードが設定された状態では、本製品をパソコンに接続したときに、アクセラランプが赤色に点灯し、文字表示窓に“0”が表示されます。



パスワードが設定されていて、解除されていない状態

パスワード解除後

- ① 文字表示窓に“0”が表示された状態で、ダイヤルボタンを操作して登録したパスワードを入力します。ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0～9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。パスワードが“2222”に設定されている場合は、次のように操作します。

パスワードの入力

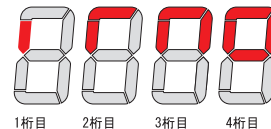
ダイヤルボタンを回します → 入力したい数字が表示されます → ダイヤルボタンを押します → 1桁目を示すマークが表示されます。 → 0が表示されると、入力は完了です。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

USB接続の場合

パスワードが設定された本製品をパソコンに接続した状態でパソコンの電源をONし、OSを起動する場合、ロック解除はOS起動後に行ってください。

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



2桁目以降を入力するときには、0～9の数字のほかにも“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

- ② 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押す。

- ③ アクセスランプが緑色に変われば、ロックの解除は完了です。自動的に本製品がOSに認識され、使用できるようになります。

! パスワードをまちがえると、本製品は停止します。一旦本製品の電源をOFFし、再度ONにして、手順1からやり直してください。

重要なご注意：

設定されているパスワードを忘れてしまった場合、以下の手順でパスワードを削除することができますが、セキュリティ上この作業を行うと、ハードディスク内の全てのデータも消去されてしまいます。パスワードの管理には十分に注意してご使用ください。

- ① ロック解除手順の中で入力するパスワードを、“9999”を入力する。
- ② ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。
- ③ 表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、もう一度パスワード“4567”を入力する。
- ④ ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。
- ⑤ アクセスランプが緑点滅され、パスワード消去、データ消去が行われます。
—この作業は数時間かかります。
- ⑥ パスワード消去、データ消去が完了すると、製品の電源がOFFします。

パスワードを変更する

登録したパスワードの変更は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- ① 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- ② アクセスランプが緑色の点滅から赤色の点灯に変わった
ら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字
表示窓には“c”と表示されます。ダイヤルボタンを回す
と、モードが切り替わりますので、変更モードを選択しま
す（c:変更モード、d:削除モード）。




- ③ ダイヤルボタンを文字表示窓の表示が消えるまで押し続け
ます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“0”と表示
されます。



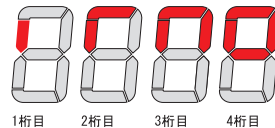
- ④ 変更前のパスワードを、ダイヤルボタンを操作して入力します。
ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0~9まで変化します（左に回すと9→0に変化し
ます）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。

パスワードの入力



ダイヤルボタンを回し
ます → 入力したい数字が表示
されます → ダイヤルボタンを押し
ます → 1桁目を示すマークが
表示されます。 → 0が表示されると、入
力は完了です。

桁の位置を示すマークの読み方は次の
とおりです。



2桁目以降を入力するときには、0~9
の数字のほか“d”が表示されま
す。“d”を選択すると前の桁の入力
内容をキャンセルします。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

- ⑤ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し。

- ⑥ アクセスランプが赤色の点灯からオレンジ色の点灯に変わったら、変更後のパスワードを、ダイヤルボタンを操作して入力します。操作は手順4を参照してください。

- ⑦ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し。

- ⑧ 文字表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、確認のためにもう一度パスワードを入力します。操作は手順4を参照してください。



- ⑨ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0.”（小さいドット付き0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し。

- ⑩ アクセスランプが緑色に変われば、パスワードの変更は完了です。

❗ パスワードをまちがえると、本製品は停止します。手順1からやり直してください。

1回目と2回目のパスワードが異なると、初期画面に戻ります。手順6からやり直してください。

2回目の入力中は、文字表示窓に“.”が常に表示されています。

パスワードの無効化（削除）

登録したパスワードの無効化（削除）は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- 1 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- 2 アクセスランプが緑色の点滅から赤色の点灯に変ったら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字表示窓には“c”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、削除モードを選択します（c:変更モード、d:削除モード）。




- 3 ダイヤルボタンを文字表示窓の表示が消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“0”と表示されます。



- 4 登録済みのパスワードをダイヤルボタンを操作して入力します。ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0~9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。

パスワードの入力

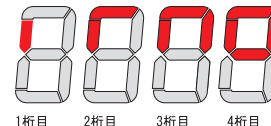


ダイヤルボタンを回します → 入力したい数字が表示されます → ダイヤルボタンを押します → 1桁目を示すマークが表示されます。 → 0が表示されると、入力は完了です。

参考

パスワードの無効化（削除）は、パソコンに接続した状態で、専用のユーティリティから行うことも可能です。（Windows XP, 2000のみ）
詳しくは、付属CD-ROM中の説明ファイルをご参照ください。
フォルダ名：¥PWUTY
ファイル名：PWUTY.html

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



2桁目以降を入力するときには、0~9の数字のほか“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

- ⑤ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押す。

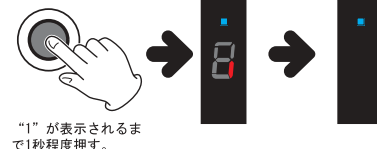
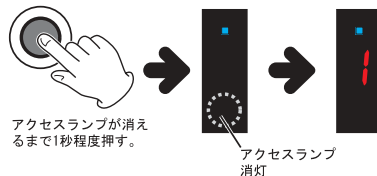
- ⑥ アクセスランプが緑色に変われば、パスワードの無効化（削除）は完了です。

⚠ パスワードをまちがえると、本製品は停止します。手順1からやり直してください。

ライトプロテクトモード

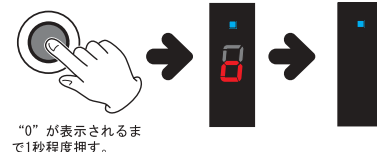
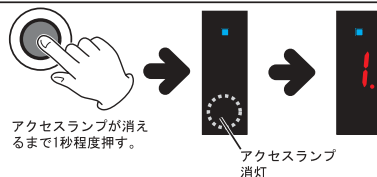
ライトプロテクトモードとは、本製品への書き込みを禁止するモードです。ライトプロテクトモードの設定は、次の手順でおこないます。パスワードが設定されている場合は、パスワード認証が完了した状態で作業を始めてください。

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、ライトプロテクトモードを選択します（1:ライトプロテクトモード、2:サイレントモード）。
- ② ダイヤルボタンを表示窓に“1”（小さい1）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。これでライトプロテクトモードの設定は完了です。



ライトプロテクトモードの解除

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1.”（ドット付きの1）と表示されます。
- ② ダイヤルボタンを表示窓に“0”（小さい0）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。これでライトプロテクトモードの解除は完了です。



⚠️ ライトプロテクトモードの設定は、本製品をパソコンに接続していない状態でおこなってください。パソコンに接続した状態では設定できません。

ライトプロテクトモードが設定された状態では、“1.”（ドット付きの1）と表示されます。

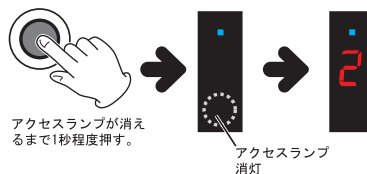


- ⚠️
- Windows 2000環境で、本製品を「NTFS」形式でフォーマットした場合は、ライトプロテクトモードは「OFF」の状態で使用してください。
 - 本製品をeSATAポートに接続して使用する場合、ライトプロテクトモードは使用することが出来ません。ライトプロテクトモードは「OFF」に設定してご使用ください。（LHD-HBSSAU2のみ）
 - Mac OS 9.2.2までの環境で、ライトプロテクトモードを使用することはできません。
 - Mac OS X環境で、本製品が「FAT32」形式でフォーマットされている場合、ライトプロテクトモードは「OFF」の状態で使用してください。
 - ※Mac OS X環境で、本製品のライトプロテクトモードを「ON」で使用する場合は、本製品を「Mac OS 拡張」形式でフォーマットしてご使用ください。
 - Mac OS X環境で、ライトプロテクトモードを「ON」に設定してご使用になる場合、OS起動状態で本製品を取り外すことはできません。

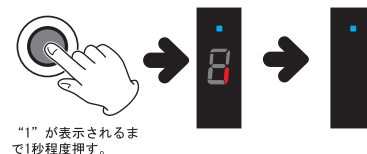
サイレントモード

サイレントモードとは、パスワード入力時に文字表示窓に数字を表示せず、周囲からパスワードが見えないようにするモードです。サイレントモードの設定は、次の手順でおこないます。パスワードが設定されている場合はパスワード認証が完了した状態で作業を始めてください。

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、サイレントモードを選択します（1:ライトプロテクトモード, 2:サイレントモード）。

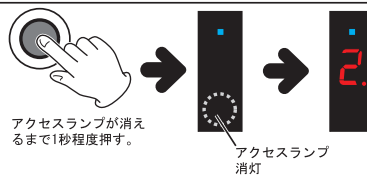


- ② ダイヤルボタンを表示窓に“1”（小さい1）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでサイレントモードの設定は完了です。

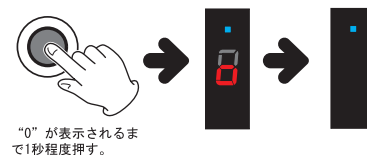


サイレントモードの解除

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回してモードを切り替え、“2.”（ドット付きの2）を表示させます。



- ② ダイヤルボタンを表示窓に“0”（小さい0）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでサイレントモードの解除は完了です。



① サイレントモードの設定は、本製品をパソコンに接続していない状態でおこなってください。パソコンに接続した状態では設定できません。

サイレントモードが設定された状態では、“2.”（ドット付きの2）と表示されます。

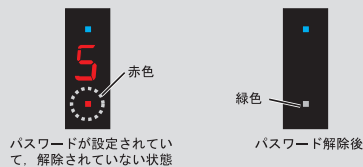


サイレントモードでのパスワード入力

サイレントモードでのパスワード入力は、画面に数字が表示されませんので、入力ミスに注意して操作してください。

画面に数字が表示されない以外の操作は、通常のパスワード入力と同じです。

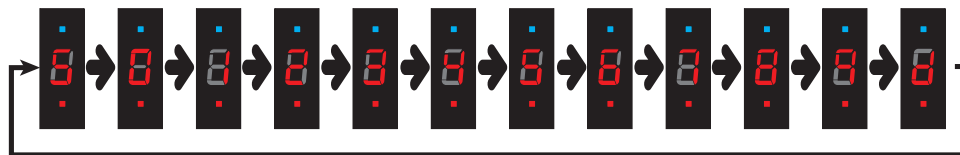
サイレントモードに設定された状態では、本製品をパソコンに接続したときに、アクセスランプが赤色に点灯し、文字表示窓に“S”が表示されます。



■ダイヤルボタンを回したときの表示

ダイヤルボタンを右に回すごとに、“.”（ドット）が点滅し、数字の変化を示します。

ドットが点滅するたびに、入力する数字は次のように変わります（ダイヤルボタンを左に回すと、逆向きに変わります）。



たとえば、“2”を入力したい場合は、ダイヤルボタンを3つ分右に回してからダイヤルボタンを押します。

サイレントモードでは、数字を入力するごとに、“d”と表示されます。



補足説明

ここでは、各シリーズや接続形態に固有の機能について補足説明をいたします。
参照したい項目をクリックしてください。

PC 電源連動機能について

Macintosh での起動ディスクの設定
(IEEE1394 接続時のみ)

IEEE1394 機器の増設について
(IEEE1394 接続時のみ)

PC 電源連動機能について

本製品はPC電源連動機能を搭載しています。

PC電源連動機能とは、パソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源のON/OFFを切り替える機能のことです。

いったん本製品の電源モードSWを「AUTO」にしてパソコンに接続すれば、後はパソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源もON/OFFされます。本製品の電源のON/OFFは下表のように切り替わります。

動作	電源モードスイッチ	
	AUTO時	ON時
起動中のパソコンに接続した時	ON	常にON
接続先のパソコンの電源をONにしたとき	ON	
接続先のパソコンがスリープや省電力モードから復帰したとき	ON	
IEEE 1394/USB ケーブルを外したとき	OFF	
パソコンがシャットダウンしたとき	OFF	
パソコンがスリープや省電力モードになったとき	OFF	

注意！

- ・ Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。

Macintosh での起動ディスクの設定 (IEEE1394 接続時のみ)

Macintosh 環境で IEEE1394 接続にてご使用の場合、本製品を起動ディスクとして使用することができます。ここではその設定方法についてご説明いたします。

起動ディスクとして使用可能な OS

- ・Mac OS X 10.1 以降

Mac OS 9.1 ~ 9.2.2 までの環境で本製品を起動ディスクとして使用することはできません。

以下のモデルではパソコン側の仕様上の制限により起動ディスクに設定することができません。

- ・ Power Mac G4 (PCI Graphics)

以下のモデルで起動ディスクとして使用する場合、パソコン本体のファームウェアのバージョンを「2.4」以上にする必要があります。詳細は、アップルコンピュータ社の Web サイトをご参照ください。

- ・ iMac DV
- ・ Power Mac G4 (AGP Graphics)
- ・ PowerBook (FireWire)

設定方法

Mac OS X の場合

アップルメニューから「システム環境設定」を選択し「起動ディスク」をダブルクリックして開いてください。

本製品のシステムフォルダをクリックして選択状態にして、「再起動」ボタンをクリックしてください。

注意事項

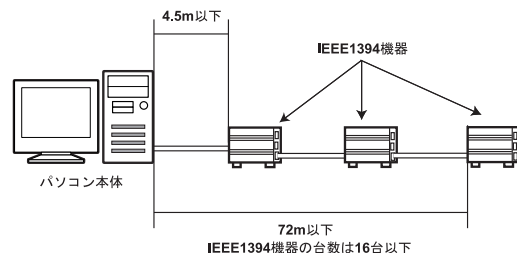
- ・ インストールの際は必ずハードディスクを Mac OS 拡張にてフォーマットしてください。本製品の出荷時フォーマットである「DOS」フォーマットや「Mac OS 標準」フォーマットではシステムが正しく起動しない場合があります。これらのフォーマットでの使用はサポート対象外とさせていただきます。
- ・ 本製品を起動ディスクに設定する場合は、必ず Mac OS X のインストール CD-ROM から本製品へシステムをインストールしてください。他の起動ディスクからシステムのコピーを行った場合、本製品を起動ディスクとしてご使用になれません。
- ・ システム起動中に絶対に IEEE1394 ケーブルまたは AC コードを抜かないでください。
- ・ 本製品からのシステム起動中はスリープ機能には対応いたしません。
- ・ 起動ディスクに設定する場合は、電源モードスイッチを「ON」に設定してください。

IEEE1394 機器の増設について (IEEE1394 接続時のみ)

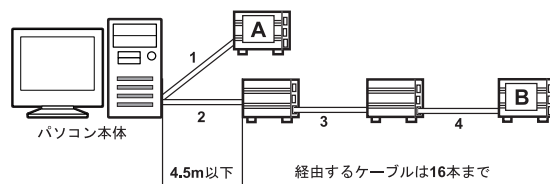
IEEE1394 コネクタが複数装備されている IEEE1394 機器は、パソコンとの接続に使用していないコネクタを使って IEEE1394 機器の数珠繋ぎによる増設 (デージーチェーン型) を行うことができます。

IEEE1394 機器は、数珠繋ぎによる増設 (デージーチェーン型) と、接続を分岐させる増設 (ツリー方) の 2 つの方法で、機器を増設することができます。

- デージーチェーン型では、1本のケーブルの長さは最大 4.5m まで、ケーブル長の合計は最大 72m までに制限されます。また IEEE1394 機器の台数は 16 台以下 (パソコン本体を含まない) に制限されます。

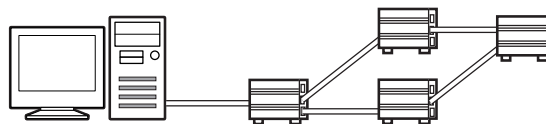


- ツリー型では、1本のケーブルの長さは 4.5m まで、IEEE1394 機器間で経路できるケーブルの本数に最大 16 本という制限があります。接続台数は 62 台以下 (パソコン本体を含まない) ですが、Windows 環境ではストレージ機器の台数はドライブ文字の限界 (A: ~ Z: でシステムが使用していないもの) に制限されます。



ツリー型で増設する場合の注意

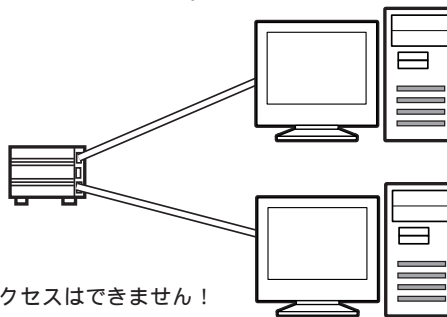
ツリー型で増設を行う場合、接続中にループ（たどってゆくと元に戻ってしまう接続）があってははいけません。



どれか1本のケーブルを外せばループが解消されるのでOKです。

その他の注意

複数のパソコンが1台のIEEE1394機器を同時に使用することはできません。



同時にアクセスはできません！

故障かな？と思ったら

Q 本製品を接続したが認識されない。

A ケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン側、本製品側共に正しく差し込まれているかを確認してください。

A 本製品をハブ経由で接続していませんか？
その場合は、パソコンのポートに本製品だけを直接接続して試してみてください。
ご使用の製品がバスパワー対応の場合、ハブから電源供給量だけでは、本製品が使用できない場合があります。また、USB接続の場合は、バッテリー駆動時にUSBポートからの電源供給を行わない機種もあります。



本製品を接続したが認識されない(続き)



特定のOSで認識されない場合、フォーマット形式が、そのOSでは対応していない可能性があります。

本製品を再フォーマットした場合、フォーマット形式が、ご使用のOSに合ったものであるかをご確認ください。

フォーマット形式 (ファイルシステム)	本製品の対応OSでの制限事項
NTFS	Windows XP、2000 で使用するためのフォーマット形式です。 Mac OS X 10.3 以降では読み込みのみサポートしています。 Windows Me、98、Mac OS 9.1 ～ 9.2.2、Mac OS X 10.0.4 ～ 10.2.8 環境では認識されません。
FAT 32	Windows 環境では全て認識されます。 Mac OS X 10.0.4 ～ 10.1.5では認識されません。 Mac OS X 10.2以降の場合、ハードディスクの容量が120 GBを超えると、容量制限の問題から認識されません。 Mac OS 9環境では、File Exchange が必要です。
HFS /HFS + (Mac OS 標準 /Mac OS 拡張)	Mac OS 専用のフォーマット形式です。 Macintosh環境で、このフォーマット形式でフォーマットした場合、Windows環境では認識されなくなります。

Q 本製品から、システム起動ができない。

A ご使用の OS および、接続形態をご確認ください。

本製品は Mac OS X 10.1 以降の環境で IEEE1394 接続時の場合以外は、システムを起動することはできません。また、上記の環境でご使用の場合も、起動ディスクに設定するには、いくつか条件がございます。詳しくは「Macintosh での起動ディスクの設定」をご参照ください。

Q Windows XP,2000 で「ディスクの管理」が起動できない。

A 管理者権限のあるユーザーとしてログオンしていますか？

「ディスクの管理」を起動するには、管理者権限を持つユーザー（例えば「コンピュータの管理者」や「Administrator」）としてログオンしていなければなりません。

Q スリープ状態から復帰できない。

A パソコンのスリープ（サスペンド）状態の処理方法によりこのような現象が発生する場合があります。ご使用のパソコンによっては、パソコン本体メーカーから供給されるアップデートプログラムなどによりこの現象を回避できる場合もあります。スリープ状態から復帰できない場合は、スリープ（サスペンド）機能を OFF にしてご使用ください。

Q 本製品の物理フォーマットができない。

A 本製品は物理フォーマットをサポートしていません。論理フォーマット（通常のフォーマット）のみでご使用ください。

Q USB 接続時にデータの転送速度が遅い。

A USB 2.0 のポートに正しく接続されていますか。

USB 1.1 のポートに接続されている場合、データの転送速度は Full-Speed(12Mbps) までとなります。High-Speed (480Mbps) でデータ転送を行うには USB 2.0 ポートに接続してください。

パソコン本体に USB 2.0 ポートがない場合は別売りの USB 2.0 インターフェースボード (PCI 用インターフェースボード、もしくは CardBus 対応 USB 2.0 インターフェースカード) をご使用ください。

Q Macintosh 環境に USB 接続で使用していますが、スリープ状態から復帰した際に、取り外されたようなメッセージが表示されます。

A Macintosh 環境に USB 接続した場合、上記のような症状が再現されます。取り外されたようなメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。そのまま問題なくご使用いただけます。

このメッセージは、IEEE1394 接続をしている場合は表示されません。

オプション品について

弊社ではインターフェースボードやケーブルなどを別売品として取り扱っております。オプション品のお求めは、お買い求めいただいた販売店またはロジテックの安心オンラインショップ「ロジテックダイレクト」にてお求めください。

ロジテックダイレクトホームページ

<http://www.logitech-direct.jp>

PCIバス用USB 2.0インターフェースボード

型番	バス	備考
LHA-USB2VA	PCI	インターフェースボード単体 Windows XP,Me,98,2000対応

CardBus対応USB 2.0インターフェースカード

型番	バス	備考
LPM-CBUSB2HB	CardBus	インターフェースカード単体 Windows,Mac OS X 10.3以降対応

USB 2.0 High-Speed 対応ケーブル

型番	長さ	備考
CB-USB2AMB-010	1.0m	シリーズA-mini B

IEEE1394 ケーブル

型番	長さ	備考
CB-I66-021S	2.1m	6ピン-6ピン
CB-I66-011S	1.1m	
CB-I66-006S	0.6m	
CB-I64-021S	2.1m	6ピン-4ピン
CB-I64-011S	1.1m	
CB-I64-006S	0.6m	

ハードウェア仕様

機種名		LHD- HBSU2シリーズ	LHD- HBSFU2 シリーズ
インターフェース		USB 2.0 High- Speed (USB 1.1 互換)	IEEE 1394 USB 2.0 High- Speed (USB 1.1 互換)
ディスク回転数		7200 rpm	7200 rpm
最大データ 転送速度 *1		480 Mbps (USB High- Speed) 12 Mbps (USB Full- Speed)	400 Mbps (IEEE 1394) 480 Mbps (USB High- Speed) 12 Mbps (USB Full- Speed)
コネクタ形状		USB mini-B	IEEE 1394 6 ピン × 1 IEEE 1394 4 ピン × 1 USB mini-B × 1
環境条件 *2	動作時	温度	5 ~ 35
		相対湿度	20% ~ 80%
	保管時	温度	- 20 ~ 50
		相対湿度	20% ~ 80%
入力電圧		AC 100 V ± 10 % 50/60 Hz	AC 100 V ± 10 % 50/60 Hz
消費電力 (定格)		15.5 W (LHD- HBS750U2) 15W (LHD-HBS500U2) 13W (LHD-HBS400U2) 13W (LHD-HBS300U2) 12W (LHD-HBS250U2)	15.5 W (LHD- HBS750FU2) 16W (LHD-HBS500FU2) 13W (LHD-HBS400FU2) 13W (LHD-HBS300FU2) 12.5W (LHD-HBS250FU2)
外形寸法 幅 × 奥行き × 高さ *3		46 × 220 × 169 mm	46 × 220 × 169 mm
重量		1.6 kg	1.6 kg

*1 理論値

*2 ただし結露なきこと

*3 本体のみ

記憶容量については、製品のパッケージをご覧ください。

保証とサービスについて

製品には、保証書が添付されています。

保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししています。記載内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間は保証書に記載されています。お買い上げ日より有効です。

サービスを依頼される場合

修理品については、弊社サービス窓口にお送りいただくか、お求めいただいた販売店へご相談ください。
故障かどうか判断がつかない場合は、事前に下記弊社テクニカルサポートにお問い合わせください。

弊社サービス窓口およびテクニカルサポートの連絡先については、**次ページの「ユーザーサポート窓口のご案内」**をご参照ください

保証期間中の修理につきましては、保証規定に従い修理いたします。

保証期間終了後の修理につきましては、「テクニカルサポートセンター」までご連絡ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理させていただきます。(修理に代わって同等品と交換させていただく事があります)なお、補修用性能部品(製品の機能を維持するための部品)の最低保有期間は、製品終息後5年間です。

ユーザーサポート窓口のご案内

製品に対する技術的な質問や、取扱説明書に対するお問い合わせ

お問い合わせの際に次の ~ の内容をご確認の上、弊社「テクニカルサポート」までお問い合わせください。

現在の状態（できるだけ詳しく）

製品の名称/シリアル番号（保証書に記載されています）

ご購入年月日、ご購入先

テクニカルサポート連絡先（ナビダイヤル）

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8 2 6 8 ロジテック株式会社 テクニカルサポート

TEL. 0570-022-022 FAX. 0570-033-034

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～18：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）

携帯電話（FAX）、PHS（TEL、FAX共）、ひかり（光）電話（TEL、FAX共）、IP電話（TEL、FAX共）はご利用になれません。

郵送または宅配便にて修理依頼される場合のお願い

- ・ 送料および、梱包費用は保証期間の有無を問わずお客様のご負担になります。
- ・ 保証期間中の場合は、保証書を商品に添付してください。
- ・ 必ず、「お客様のご連絡先（ご住所/電話番号）」「故障の状態」を書面にて添付してください。
- ・ 保証期間経過後の修理については、お見積りもりの必要の有無、または修理限度額および連絡先を明示のうえ、製品に添付してください。
- ・ ご送付の際は、緩衝材に包んでダンボール箱（本製品の梱包箱、梱包材を推奨します）等に入れて、お送りください。

修理品送付先

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8268

ロジテック（株）修理サポートセンター（3番受入窓口）

TEL：0265-74-1423 FAX：0265-74-1403

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～17：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）

LHD-HBSSAU2シリーズ オンラインガイド

このたびは弊社製外付け型HDユニットをお求めいただきまことにありがとうございました。
このオンラインガイドでは、ハードディスクのフォーマット方法をはじめ、製品の取り扱い方法についてガイドしています。
下のボタンから、ご参照になりたい項目をクリックしてください。

使用上のご注意

使用環境について

取り扱いについて

「i-Didl」の使用について

eSATAブラケットの取り付け方法

フォーマット（初期化）について

取り外しについて

補足説明

起動ドライブとして使用する場合

PC電源連動機能について

省電力機能の設定

サービスパックの確認について

オプション品について

Q&A よくある質問

ハードウェア仕様

保証とサービスについて

使用上のご注意

eSATAポートとUSBポートの両方を同時に接続することはできません。

ご使用のパソコンの仕様によっては、PC電源連動機能が正常に動作しない場合があります。その場合は背面の電源モードスイッチをONに切り替えてください。

本製品をeSATA接続時に起動ディスクとして使用する場合は、電源モードスイッチは必ずONの状態でご使用ください。また、このときは省電力機能もOFFにしておく必要があります。省電力機能の設定方法については「システムスタンバイの設定」をご参照ください。

動作中のケーブルの抜き差しは絶対に行わないでください。不要なリセットや動作異常を招き、データが消失する恐れがあります。

Windows 98 (Second Editon 含む) にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ (省電力) を OFF に設定してください。

本製品を接続した状態でパソコンを起動する際、PC電源連動機能により、本製品の電源がON/OFFを繰り返す場合がありますが、問題ありませんのでそのままご使用ください。

本製品をUSB 2.0ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。USB 1.1用ケーブルでUSB 2.0ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生することがあります。

USB 1.1ポートへ接続して使用する際もなるべく付属のUSB 2.0対応ケーブルをご使用ください。

本製品はバスパワーでは動作しません。ご使用の際は、必ず本製品のACコードをAC100Vのコンセントに接続して電源を供給してください。

本製品をeSATAポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものを使用してください。

使用環境について

本製品の使用環境は、接続形態により異なります。ご使用になる接続形態の項目をクリックしてください。

eSATA 接続の場合

USB 接続の場合

eSATA 接続の場合

製品を eSATA インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を eSATA インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。また、NCQ を有効とするためには、インターフェースが NCQ に対応している必要があります。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ

eSATAポートを搭載しているまたは搭載可能な機種に限定されます。

アップルコンピュータ社	Power Mac G5
-------------	--------------

接続には本製品付属の eSATA ブラケットが必要です。
Power Mac G5 は、NCQ には対応していません。

対応 OS

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional Service Pack 1以降
Windows 2000 Professional Service Pack 4以降

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.2.8以降

USB 接続の場合

製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合の使用条件は以下の通りです。

対応パソコン

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合は、以下のパソコン本体に接続可能です。すべてUSBポートを搭載している機種に限定されます。また、High-Speedでの転送を実現するためにはパソコン本体のインターフェースがUSB 2.0に対応していなければなりません。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
アップルコンピュータ社	MacBook Pro
	Mac mini
	eMac
	iBook、iBook G4
	iMac、iMac G5
	Power Mac G5
	Power Mac G4、Power Mac G4 Cube
	Power Macintosh G3 (Blue and White)
	PowerBook G4、PowerBook (FireWire)
	PowerBook G3 (BronzeKeyboard)

対応 OS

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合には、以下の OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 (Second Edition 含む)
Windows 2000 Professional

アップルコンピュータ社

Mac OS X 10.1 以降 ()
Mac OS 9.0.4 ~ 9.2.2 まで ()

USB2.0 接続にてご使用の場合は、Mac OS X 10.2 以降となります。

取り扱いについて

ここでは本製品の取り扱い方法についてご説明いたします。参照したいトピックをクリックしてください。

「 i-Dial 」の使用について

eSATA ブラケットの取り付け方法

フォーマット（初期化）について

取り外しについて

「 i-Dial 」の使用について

ここでは本製品搭載の「 i-Dial(アイ-ダイヤル)」の使用方法についてご説明いたします。参照したいトピックをクリックしてください。

パスワードの新規設定

ロックを解除する

パスワードを変更する

パスワードの無効化（削除）

ライトプロテクトモード

サイレントモード

パスワードの新規設定

パスワードの新規設定は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- 1 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- 2 アクセランプが緑色の点滅からオレンジ色の点灯に変わり、文字表示窓に“P”と表示されたら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字表示窓には“0”と表示されます。



- 3 設定したいパスワードをダイヤルボタンを操作して入力します。
ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0~9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。パスワードを“2222”に設定したい場合は、次のように操作します。



以降、4桁目まで入力を繰り返します。

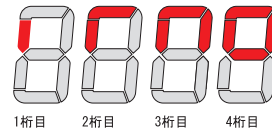
参考

パスワードの新規設定は、パソコンに接続した状態で、専用のユーティリティから行うことも可能です。
(Windows XP, 2000のみ)
詳しくは、付属CD-ROM中の説明ファイルをご参照ください。
フォルダ名: ¥PWUTY
ファイル名: PWUTY.html



本製品を起動ディスクとしてご使用になる場合は、パスワードを設定してご使用になることはできません。

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



2桁目以降を入力するときには、0~9の数字のほかに“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

④ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消える
まで1秒程度押し。

⑤ 文字表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、確認のためにもう一度パスワードを入力します。操作は手順3を参照してください。



表示窓の数字が消える
まで1秒程度押し。

⑥ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0.”（小さいドット付き0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。

⑦ アクセスランプが緑色に変われば、パスワードの設定は完了です。

1回目と2回目のパスワードが異なると、初期画面に戻ります。手順2からやり直してください。

2回目の入力中は、文字表示窓に“.”が常に表示されています。

ロックを解除する

パスワードが設定された状態では、パソコンに接続する際に登録したパスワードを入力してロックを解除する必要があります。ロックを解除しないと、本製品はOSに認識されません。ロックの解除は、次の手順でおこないます。

パスワードが設定された状態では、本製品をパソコンに接続したときに、アクセラランプが赤色に点灯し、文字表示窓に“0”が表示されます。



- ① 文字表示窓に“0”が表示された状態で、ダイヤルボタンを操作して登録したパスワードを入力します。ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0～9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。パスワードが“2222”に設定されている場合は、次のように操作します。

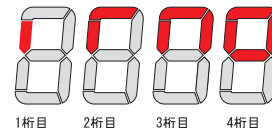


以降、4桁目まで入力を繰り返します。

USB接続の場合

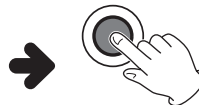
パスワードが設定された本製品をパソコンに接続した状態でパソコンの電源をONし、OSを起動する場合、ロック解除はOS起動後に行ってください。

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



2桁目以降を入力するときには、0～9の数字のほか“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

- ② 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押す。

- ③ アクセスランプが緑色に変われば、ロックの解除は完了です。自動的に本製品がOSに認識され、使用できるようになります。

❗ パスワードをまちがえると、本製品は停止します。一旦本製品の電源をOFFし、再度ONにして、手順1からやり直してください。

重要なご注意：

設定されているパスワードを忘れてしまった場合、以下の手順でパスワードを削除することができますが、セキュリティ上この作業を行うと、ハードディスク内の全てのデータも消去されてしまいます。パスワードの管理には十分に注意してご使用ください。

- ① ロック解除手順の中で入力するパスワードを、“9999”を入力する。
- ② ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。
- ③ 表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、もう一度パスワード“4567”を入力する。
- ④ ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。
- ⑤ アクセスランプが緑点滅され、パスワード消去、データ消去が行われます。
—この作業は数時間かかります。
- ⑥ パスワード消去、データ消去が完了すると、製品の電源がOFFします。

パスワードを変更する

登録したパスワードの変更は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- ① 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- ② アクセスランプが緑色の点滅から赤色の点灯に変わった
ら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字
表示窓には“c”と表示されます。ダイヤルボタンを回す
と、モードが切り替わりますので、変更モードを選択しま
す（c:変更モード、d:削除モード）。




- ③ ダイヤルボタンを文字表示窓の表示が消えるまで押し続け
ます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“0”と表示
されます。



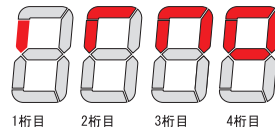
- ④ 変更前のパスワードを、ダイヤルボタンを操作して入力します。
ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0～9まで変化します（左に回すと9→0に変化し
ます）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。

パスワードの入力



ダイヤルボタンを回し
ます → 入力したい数字が表示
されます → ダイヤルボタンを押し
ます → 1桁目を示すマークが
表示されます。 → 0が表示されると、入
力は完了です。

桁の位置を示すマークの読み方は次の
とおりです。



2桁目以降を入力するときには、0～9
の数字のほか“d”が表示されま
す。“d”を選択すると前の桁の入力
内容をキャンセルします。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

- ⑤ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し続けます。

- ⑥ アクセスランプが赤色の点灯からオレンジ色の点灯に変わったら、変更後のパスワードを、ダイヤルボタンを操作して入力します。操作は手順4を参照してください。

- ⑦ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し続けます。

- ⑧ 文字表示窓に“0.”（ドット付きの0）と表示されたら、確認のためにもう一度パスワードを入力します。操作は手順4を参照してください。



- ⑨ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0.”（小さいドット付き0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し続けます。

- ⑩ アクセスランプが緑色に変われば、パスワードの変更は完了です。

! パスワードをまちがえると、本製品は停止します。手順1からやり直してください。

1回目と2回目のパスワードが異なると、初期画面に戻ります。手順6からやり直してください。

2回目の入力中は、文字表示窓に“.”が常に表示されています。

パスワードの無効化（削除）

登録したパスワードの無効化（削除）は、次の手順でおこないます。
パソコンに接続せず本製品の電源を切った状態で作業を始めてください。

- ① 本体前面のダイヤルボタンを押しながら、本体背面の電源スイッチを入れます。



- ② アクセスランプが緑色の点滅から赤色の点灯に変わったら、ダイヤルボタンから手を離します。手を離すと、文字表示窓には“c”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、削除モードを選択します（c:変更モード、d:削除モード）。



- ③ ダイヤルボタンを文字表示窓の表示が消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“0”と表示されます。



- ④ 登録済みのパスワードをダイヤルボタンを操作して入力します。
ダイヤルボタンを右に回すごとに、文字表示窓の数字が0~9まで変化します（左に回すと9→0に変化します）。入力したい数字が表示されたら、ダイヤルボタンを押して数字を確定させます。

パスワードの入力

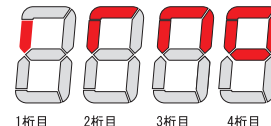


ダイヤルボタンを回します → 入力したい数字が表示されます → ダイヤルボタンを押します → 1桁目を示すマークが表示されます。 → 0が表示されると、入力は完了です。

参考

パスワードの無効化（削除）は、パソコンに接続した状態で、専用のユーティリティから行うことも可能です。（Windows XP, 2000のみ）
詳しくは、付属CD-ROM中の説明ファイルをご参照ください。
フォルダ名：¥PWUTY
ファイル名：PWUTY.html

桁の位置を示すマークの読み方は次のとおりです。



2桁目以降を入力するときには、0~9の数字のほか“d”が表示されます。“d”を選択すると前の桁の入力内容をキャンセルします。

以降、4桁目まで入力を繰り返します。

- ⑤ 4桁目の入力が終わると、表示窓に“0”（小さい0）と表示されますので、ダイヤルボタンを表示窓の表示が消えるまで1秒ほど押し続けます。



表示窓の数字が消えるまで1秒程度押し続けます。

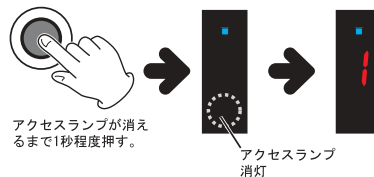
- ⑥ アクセスランプが緑色に変われば、パスワードの無効化（削除）は完了です。

⚠ パスワードをまちがえると、本製品は停止します。手順1からやり直してください。

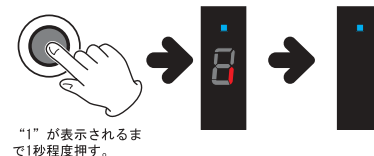
ライトプロテクトモード

ライトプロテクトモードとは、本製品への書き込みを禁止するモードです。
ライトプロテクトモードの設定は、次の手順でおこないます。
パスワードが設定されている場合は、パスワード認証が完了した状態で作業を始めてください。

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、ライトプロテクトモードを選択します（1:ライトプロテクトモード、2:サイレントモード）。

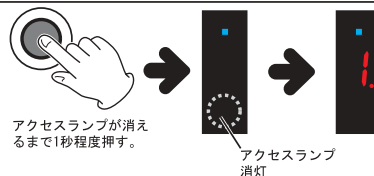


- ② ダイヤルボタンを表示窓に“1”（小さい1）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでライトプロテクトモードの設定は完了です。

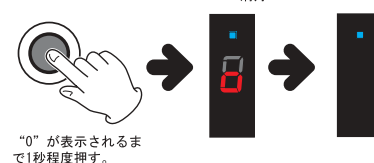


ライトプロテクトモードの解除

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1.”（ドット付きの1）と表示されます。



- ② ダイヤルボタンを表示窓に“0”（小さい0）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでライトプロテクトモードの解除は完了です。



⚠️ ライトプロテクトモードの設定は、本製品をパソコンに接続していない状態でおこなってください。パソコンに接続した状態では設定できません。

ライトプロテクトモードが設定された状態では、“1.”（ドット付きの1）と表示されます。



⚠️

- Windows 2000環境で、本製品を「NTFS」形式でフォーマットした場合は、ライトプロテクトモードは「OFF」の状態で使用してください。
- 本製品をeSATAポートに接続して使用する場合、ライトプロテクトモードは使用することが出来ません。ライトプロテクトモードは「OFF」に設定してご使用ください。（LHD+HSSAU2のみ）
- Mac OS 9.2.2までの環境で、ライトプロテクトモードを使用することはできません。
- Mac OS X環境で、本製品が「FAT32」形式でフォーマットされている場合、ライトプロテクトモードは「OFF」の状態で使用してください。

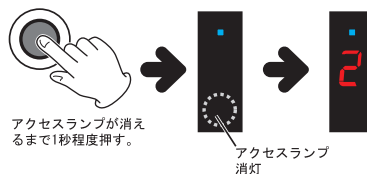
※Mac OS X環境で、本製品のライトプロテクトモードを「ON」で使用する場合は、本製品を「Mac OS 拡張」形式でフォーマットしてご使用ください。

- Mac OS X環境で、ライトプロテクトモードを「ON」に設定してご使用になる場合、OS起動状態で本製品を取り外すことはできません。

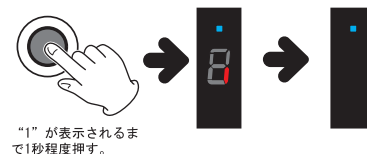
サイレントモード

サイレントモードとは、パスワード入力時に文字表示窓に数字を表示せず、周囲からパスワードが見えないようにするモードです。サイレントモードの設定は、次の手順でおこないます。パスワードが設定されている場合はパスワード認証が完了した状態で作業を始めてください。

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回すと、モードが切り替わりますので、サイレントモードを選択します（1:ライトプロテクトモード, 2:サイレントモード）。

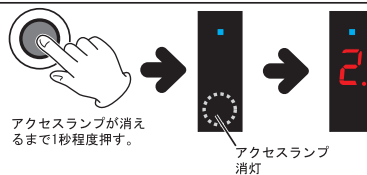


- ② ダイヤルボタンを表示窓に“1”（小さい1）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでサイレントモードの設定は完了です。

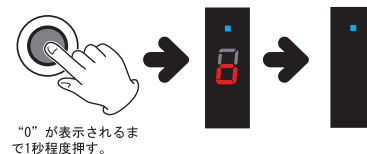


サイレントモードの解除

- ① ダイヤルボタンをアクセスランプが消えるまで押し続けます（1秒程度）。手を離すと、文字表示窓に“1”と表示されます。ダイヤルボタンを回してモードを切り替え、“2.”（ドット付きの2）を表示させます。



- ② ダイヤルボタンを表示窓に“0”（小さい0）が表示されるまで1秒ほど押し続けます。手を離すと、表示窓の表示が消えます。
これでサイレントモードの解除は完了です。



① サイレントモードの設定は、本製品をパソコンに接続していない状態でおこなってください。パソコンに接続した状態では設定できません。

サイレントモードが設定された状態では、“2.”（ドット付きの2）と表示されます。



サイレントモードでのパスワード入力

サイレントモードでのパスワード入力は、画面に数字が表示されませんので、入力ミスに注意して操作してください。

画面に数字が表示されない以外の操作は、通常のパスワード入力と同じです。

サイレントモードに設定された状態では、本製品をパソコンに接続したときに、アクセスランプが赤色に点灯し、文字表示窓に“S”が表示されます。



パスワードが設定されていて、解除されていない状態

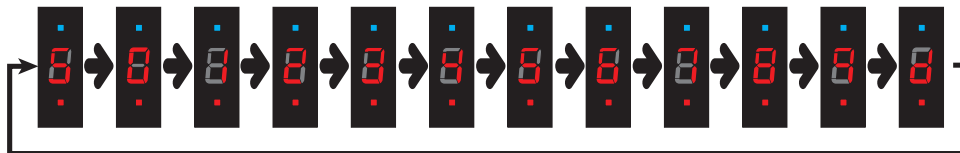


パスワード解除後

■ダイヤルボタンを回したときの表示

ダイヤルボタンを右に回すごとに、“.”（ドット）が点滅し、数字の変化を示します。

ドットが点滅するたびに、入力する数字は次のように変わります（ダイヤルボタンを左に回すと、逆向きに変わります）。



たとえば、“2”を入力したい場合は、ダイヤルボタンを3つ分右に回してからダイヤルボタンを押します。

サイレントモードでは、数字を入力するごとに、“d”と表示されます。



eSATA ブラケットの取り付け方法

ここでは本製品に付属の eSATA ブラケットをパソコンに取り付ける方法についてご説明いたします。
参照したい項目をクリックしてください。

[Power Mac G5への取り付け方法](#)

[DOS/V マシンへの取り付け方法](#)

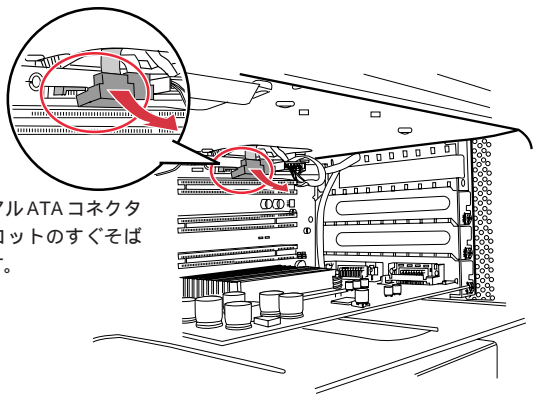
Power Mac G5への取り付け方法

ここではPower Mac G5の拡張スロットのアクセスカバーに本製品付属の拡張スロット用 eSATA ブラケットを取り付け、内部のシリアル ATA コネクタに、ブラケットの内部シリアル ATA コネクタを取り付ける手順についてご説明いたします。

取り付けは、必ずコンピュータの電源を切り、内部温度が上昇していない状態で、静電気や怪我に注意して行ってください。

はじめに「Power Mac G5 設置ガイド」内の「コンピュータの内部を扱う作業」を参照して、コンピュータのカバーを取り外し、次にエアディフレクタを取り外してください。

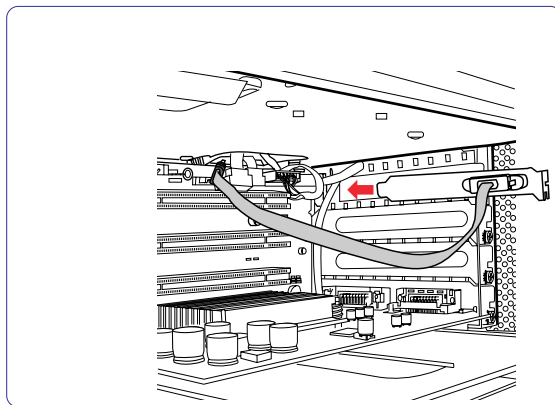
次に、現在Power Mac G5で使用されていない内部シリアルATAコネクタ（通常は向かって左側になります）を取り外します。



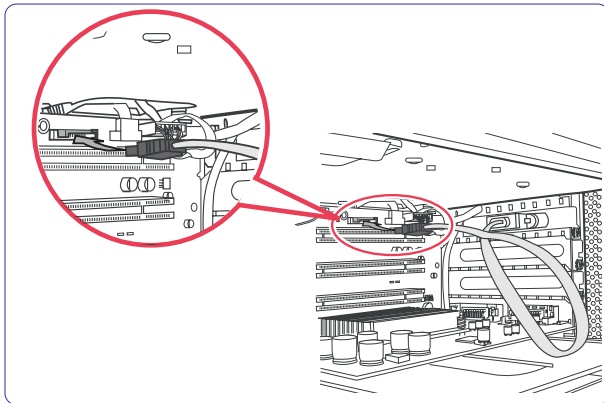
内部シリアルATAコネクタは拡張スロットのすぐそばにあります。

拡張スロットのポートアクセスカバーを取り外し、付属の拡張スロット用 eSATA ブラケットを取り付けます。

取り外すポートアクセスカバーの位置は特にどこでも構いませんが、一番上のカバーを取り外すことをお勧めします。



拡張スロット用 eSATA ブラケットのコネクタを、Power Mac G5 内部のシリアル ATA コネクタに接続します。



接続後、エアディフレクタを元に戻し、カバーを取り付けてください。

DOS/V マシンへの取り付け方法

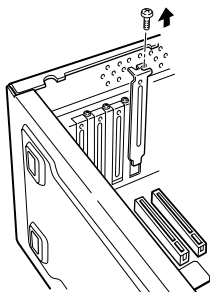
ここでは、本製品に付属の拡張スロット用 eSATA ブラケットの取り付け方法についてご説明いたします。PCIバススロットの位置や接続手順はパソコン本体によって異なりますので、詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。また、パソコン本体によって取り付けに特殊な金具が必要な機種もありますので、あらかじめ、パソコン本体の取扱説明書で確認してください。

接続時に内部ショートが発生すると電源が ON になる場合があります。感電や火災を防止するため、必ず電源コードをコンセントから外してください。

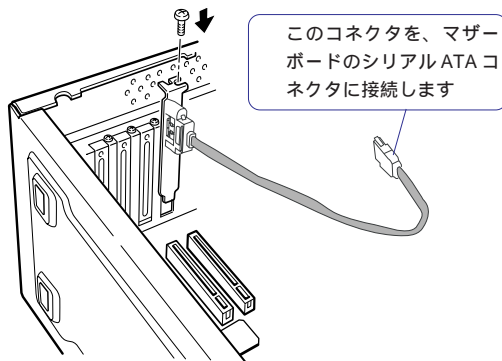
必ずパソコン本体の電源を OFF にして、電源コードをコンセントから抜いてください。

パソコン本体の取扱説明書などを参照して、パソコン本体のカバーを取り外します。

拡張スロット用 eSATA ブラケットを取り付ける PCI バスの拡張スロットを選択し、スロットカバーを取り外します。



拡張スロット用 Serial ATA ブラケットを PCI バスの拡張スロットに押し込み、ネジで固定し、ブラケットの内側に伸びているシリアル ATA ケーブルの先のコネクタを、マザーボード上にあるシリアル ATA コネクタへ接続してください。



すべての接続が終了したら、パソコン本体のカバーを元に戻します。このとき、ケーブルなどを挟み込まないようにご注意ください。

フォーマット（初期化）について

ここではハードディスクのフォーマット方法について、ご使用の OS ごとにご説明いたします。

参照したい OS のボタンをクリックしてください。

なお、本製品に OS を新規インストールする場合は、OS のインストール中にフォーマットを行います。詳しくは「補足説明」内の「起動ドライブとして使用する場合」をご参照ください。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

注意！

フォーマットを行うと、それまでにハードディスク内に保存されていたデータは、全て消去されます。大切なデータは、必ず、あらかじめバックアップを取っておいてください。

ポイント

本製品を Windows XP、2000 でご使用になる場合は、NTFS 形式で再フォーマットすることをお勧めします。NTFS は Windows 2000 から採用されたファイル形式で、データの信頼度が高く 4GB を超えるファイルを扱うことができます。ただし、NTFS 形式で再フォーマットした場合、Windows Me、98 ではご使用になれません。

Windows 環境でフォーマットを行う場合

Windows 環境でフォーマットを行う場合は、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面より実行します。

本製品を接続すると、「Logitech HD サポートツール」の「Format」画面が右のように表示されますので、ここで「フォーマット」ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリック



実行の画面に切り替わりますので、「フォーマットの開始」ボタンをクリックすると、フォーマットが実行されます。

Windows XP、2000 の場合は、「NTFS 形式」を選択することをお勧めします。
なお、Windows Me、98 では表示されません。

「フォーマットの開始」をクリック



ポイント

「Logitech HD サポートツール」から、フォーマット用ソフトウェアをインストールして、フォーマットを行うこともできます。
フォーマット用ソフトウェアのインストール方法、使用方法については右のボタンをクリックしてください。

CD-ROM からフォーマットソフトをインストールする場合

CD-ROMからフォーマットソフトをインストールする場合

本オンラインガイドが収録されている「Logitec HD サポートディスク」には、ハードディスクを複数のパーティションに分けてフォーマットができる「Logitec ディスクフォーマッタ」が収録されています。

「Logitec ディスクフォーマッタ」のインストール方法、使用方法については、下の項目をクリックしてください。

[ディスクフォーマッタのインストール方法](#)

[ディスクフォーマッタの使い方](#)

参考

- ・ 各OSに標準搭載のフォーマット機能を使用してフォーマットを行う場合は、ご使用のOSのオンラインヘルプ等をご参照ください。

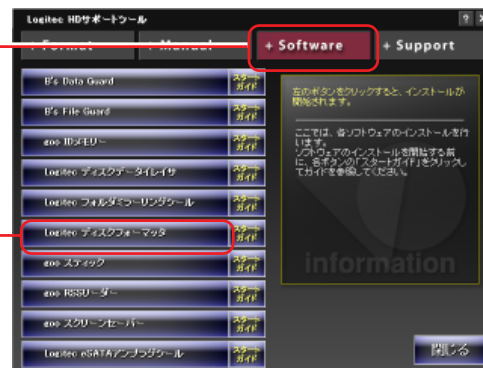
ディスクフォーマッタのインストール方法

「Logitec ディスクフォーマッタ」のインストールは、「Logitec HD サポートディスク」をパソコンにセットして自動起動する「Logitec HD サポートツール」の画面より、

「Software」タブを選択し、
ソフトウェアの一覧から、「Logitec ディスクフォーマッタ」のボタンをクリックしてください。

1. Software タブをクリック

2. 「Logitec ディスクフォーマッタ」
ボタンをクリック



自動的に、セットアップウィザードが起動しますので、この後はウィザードの指示に従ってインストールを進めてください。

ディスクフォーマッタの使い方

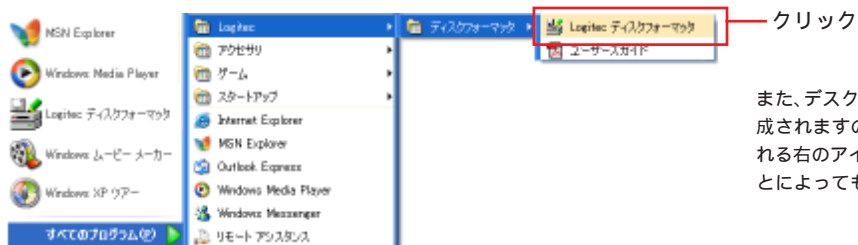
ハードディスクを複数のパーティションに分割して使用する場合、「Logitec ディスクフォーマッタ」を使用します。フォーマット手順は以下をご参照ください。

はじめに、本製品をパソコンに接続してください。

誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう、本製品以外の外付け型ハードディスクは全て取り外しておきます。また、内蔵のハードディスクが複数ある場合、誤ってフォーマットしないようあらかじめ、ドライブ名を確認して、フォーマットの際に選択しないようにしてください。

「Logitec ディスクフォーマッタ」を起動します。

「スタート」ボタンをクリックして表示されるメニューから、「(すべての)プログラム」 「Logitec」 「ディスクフォーマッタ」とポイントして、「Logitec ディスクフォーマッタ」をクリックしてください。(デフォルトの状態ですべてインストールした場合)



また、デスクトップにショートカットが作成されますので、デスクトップ上に表示される右のアイコンをダブルクリックすることによっても起動可能です。



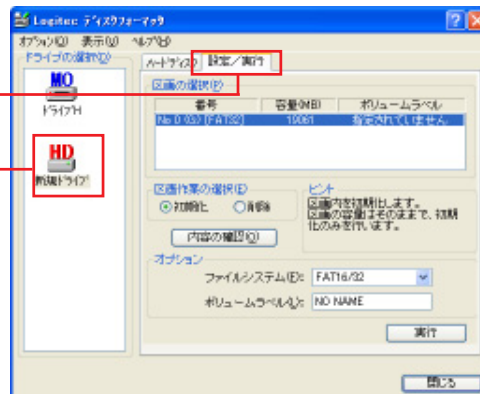
ポイント

- ・「Logitec ディスクフォーマッタ」の詳細な使用方法については、「Logitec ディスクフォーマッタ」の「ユーザーズガイド」をご参照ください。

フォーマッタが起動したら、「ドライブの選択」リストで、分割してフォーマットを行うハードディスクを選択して、「設定/実行」タブをクリックしてください。

1. 選択

2. クリック



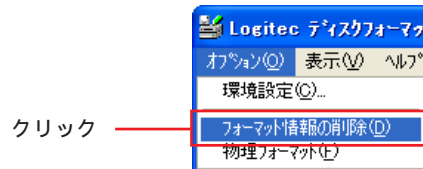
選択したハードディスクに関する情報が表示されます。

また、FAT32 ファイルシステムを使用したい場合は、「このドライブで FAT32 ファイルシステムを使用する」チェックボックスをチェックしてください。(このチェックボックスをチェックするためには、「オプション」メニューの「環境設定」で FAT32 ファイルシステムが使用できるように設定されていなければなりません。)

ご注意

- ・ 間違ったドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・ フォーマットを行うと、ハードディスクに保存されているデータはすべて消去され、復旧することはできません。フォーマット対象のハードディスク内にデータが残っている場合、重要なデータはあらかじめバックアップをとっておいてください。

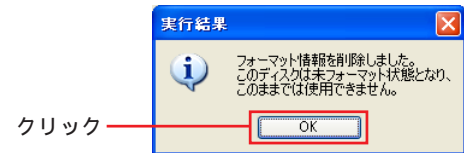
次にツールバーの「オプション」から「フォーマット情報の削除」をクリックしてください。



確認のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。

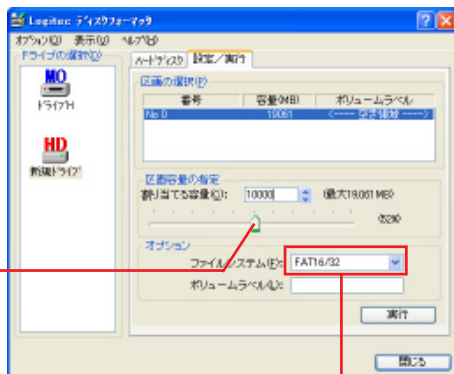


フォーマット情報の削除が行われ、終了すると以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻りますので「設定/実行」タブをクリックしてください。

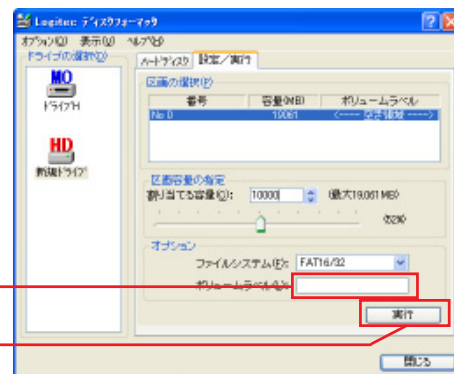
新規のハードディスクをフォーマットする場合は、すべての容量が「区画の選択」に「空き領域」として表示されます。ここからまず最初のドライブとなる区画の容量を指定します。「区画容量の指定」で「割り当てる容量」を入力するか、スライダをドラッグして容量を指定してください。



スライダ

Windows XP、2000 をご使用の場合は、ここでファイルシステムを「NTFS」にすることをお勧めします。

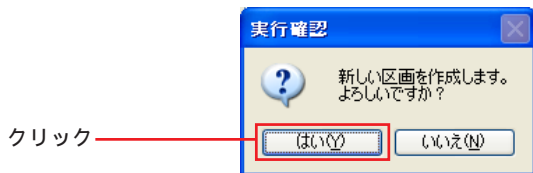
容量の指定が終了したら、最初のドライブとなる区画のフォーマットを行います。必要に応じて「ボリュームラベル」(ハードディスクの名前: 半角11文字以内/全角5文字以内の任意の文字列を入力可能)を入力し、「実行」ボタンをクリックしてください。



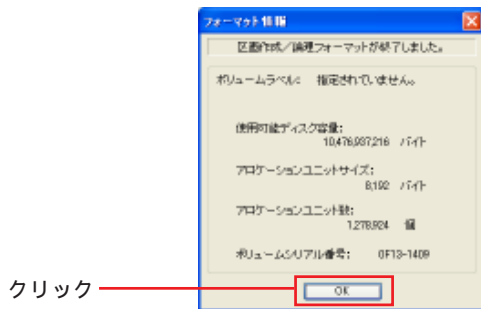
1. 入力

2. クリック

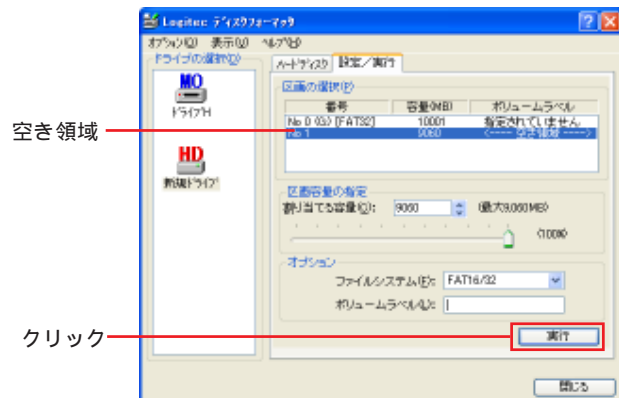
確認のメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいことを確認してから、「はい」ボタンをクリックしてください。



最初のドライブとなる区画のフォーマットが実行されます。終了すると、以下のウィンドウが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。



メインウィンドウに戻ります。このドライブにはまだ「空き領域」が残っています。(下図の「区画の選択」の「No.1」を参照してください。)この空き領域は2番目のドライブとしてフォーマットすることができます。空き領域を2番目のドライブとしてすべてフォーマットする場合は、「区画容量の指定」は変更しないで、そのまま「実行」ボタンをクリックしてください。



もし、ハードディスクを3つ以上のドライブに分割する場合は、手順と同様に「区画容量の指定」で2番目のドライブの容量を指定してから、「実行」ボタンをクリックしてください。

～と同じ手順で2番目のドライブのフォーマットを実行してください。
以上でフォーマットは終了です。

Macintosh環境でフォーマットを行う場合

Macintosh 環境では、フォーマットは OS 標準の機能を使用します。
それぞれの OS のフォーマット手順は、下の項目をクリックしてご参照ください。

参照したい項目をクリックしてください。

Mac OS Xでのフォーマット方法

Mac OS 9でのフォーマット方法

ポイント

本製品を Macintosh 環境のみでご使用になる場合は、「Mac OS 拡張」形式にて再フォーマットすることをお勧めします。「Mac OS 拡張」形式は、大容量ハードディスクを Macintosh 環境で使用するのに最適なフォーマット形式です。ただし、「Mac OS 拡張」形式で再フォーマットした場合、Windows 環境からはアクセスできなくなります。

Mac OS Xでのフォーマット方法

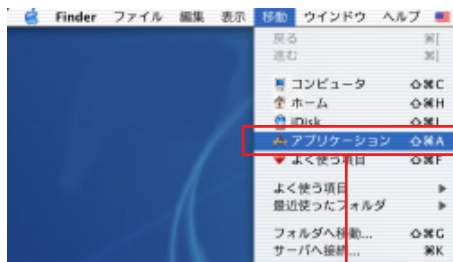
Mac OS Xでのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

フォーマット手順

ハードディスクのフォーマットにはMac OS X標準のフォーマットソフトウェア「ディスクユーティリティ (Disk Utility)」を使用します。

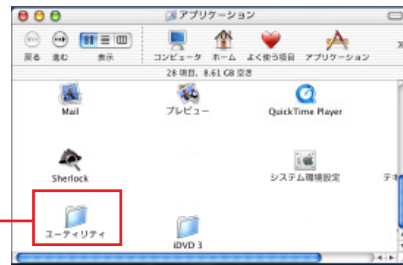
本製品をはじめて接続した際に、「今セットしたディスクはMac OS Xで読み込めないボリュームが含まれています。」というメッセージウィンドウが表示された場合は、ウィンドウ下部にある「初期化」ボタンをクリックして、手順へお進みください。

本製品を接続後、メニューバーの「移動」から「アプリケーション」を選択してください。



選択

「アプリケーション」ウィンドウが表示されます。ここで「ユーティリティ」フォルダをダブルクリックしてください。



ダブルクリック

「ユーティリティ」フォルダの一覧の中から、「ディスクユーティリティ」をダブルクリックしてください。



ダブルクリック

Mac OS X 10.0.4 ~ 10.1.5の環境では、フォルダ名やウィンドウ名に「Application」、「Utilities」等、一部アルファベットが使用されています。

Mac OS Xの標準フォーマット「ディスクユーティリティ」が起動します。以下のように設定してフォーマットを行ってください。

1. 本製品のドライブ名を選択
2. 「消去」タブを選択
3. ボリュームフォーマットの欄で「Mac OS 拡張」を選択
4. 「名前」の欄に、本製品の名前を入力。（本製品がデスクトップにマウントされる際、ここに入力した名前が表示されるようになります）
5. 「消去」ボタンをクリック

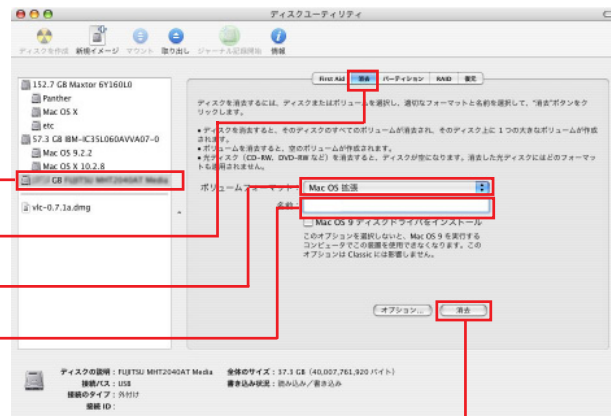
1. ドライブを選択

2. 「消去」タブをクリック

3. 「Mac OS 拡張」を選択

4. 名前を入力

5. 「消去」ボタンをクリック



確認のメッセージウィンドウが表示されますので「消去」ボタンをクリックしてください。フォーマットが実行されます。

！次ページの注意事項を必ずご参照ください。

ご注意

- ・すでにご使用の他のドライブを選択しないように十分ご注意ください。
- ・Mac OS 9環境でもご使用になる場合は、名前の下にある「Mac OS 9 ディスクドライバをインストール」のチェックボックスにチェックを入れてください。
(但し、このチェックボックスはMac OS Xのみ搭載モデルの場合、表示されない場合があります。)

ポイント

- ・フォーマットは「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧Macと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。

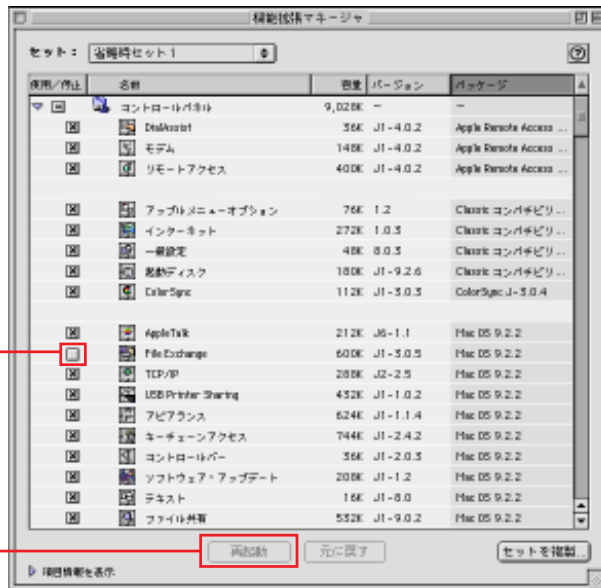
Mac OS 9でのフォーマット方法

Mac OS 9でのハードディスクのフォーマット手順は、以下をご参照ください。

「アップル」メニューから「コントロールパネル」「機能拡張マネージャ」を開き、「File Exchange」を「停止」して、コンピュータを再起動してください。

1. このチェックをOFFにする事によって、機能が停止します

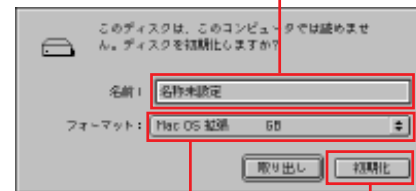
2. 「再起動」ボタンをクリック



パソコンが再起動後、本製品を接続すると「このディスクはこのコンピュータでは読めません。ディスクを初期化しますか?」というメッセージとともに初期化のウィンドウが表示されます。ここで、必要に応じて名前を入力し、フォーマット形式に「Mac OS 拡張」を選択し、「初期化」ボタンをクリックします。

「名前」を入力すると、本製品がデスクトップにマウントされる際、その名前が表示されるようになります。

1. 名前を入力



2. 「フォーマット形式」を選択

3. 「初期化」をクリック

初期化が終わったら、「File Exchange」を「ON」に戻しておきます。

ポイント

- ・ フォーマット形式は「Mac OS 拡張」を推奨します。「Mac OS 標準」は旧バージョンのMac OSと互換性を持ったフォーマット形式ですが、大容量ハードディスクのフォーマットには適していません。
- ・ デスクトップ上の本製品のドライブアイコンをクリックし「特別」から「ディスクの初期化」をクリックしても、フォーマットを行うことは可能ですが、この方法で初期化を行う場合、「DOS (FAT32)」形式でフォーマットされているハードディスクはフォーマット形式の変更はできません。いったん、Mac OS 拡張でフォーマット後に、再フォーマットを行う場合などにご使用ください。

取り外しについて

ここでは本製品の取り外し方法を接続別にご説明いたします。参照する項目をクリックしてください。

eSATA 接続の場合

USB 接続の場合

ポイント

Mac OS X 環境では eSATA 接続の場合、ご使用のマシン、eSATA I/F の仕様により、コンピュータの起動中に取り外しを行える場合（ホットプラグ対応）と、行えない場合（ホットプラグ未対応）があります。詳しくはご使用の Macintosh マシン、eSATA I/F の仕様をご確認ください。

eSATA 接続の場合

Windows XP、2000環境の場合、eSATA接続時の取り外しは、付属のCD-ROMからアンプラグツールをインストールして行います。なお、インストールする際、管理者権限のあるユーザーとしてシステムにログオンしていなければいけない点にご注意ください。

インストール方法

「Logitech eSATA アンプラグツール」のインストールは、「Logitech HD サポートディスク」をパソコンにセットして自動起動する「Logitech HDサポートツール」の画面より、「Software」タブを選択し、ソフトウェアの一覧から、「Logitech eSATA アンプラグツール」のボタンをクリックしてください。

1. Softwareタブをクリック



2. 「Logitech eSATA アンプラグツール」ボタンをクリック

インストールウィザードが起動するので、この後は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

❗ 本製品をeSATAブラケットに接続してご使用になる場合、取り外しを行うには、マザーボード側がアンプラグに対応している必要があります。詳しくは、マザーボードのマニュアルをご参照ください。

取り外し方法

取り外しを行う機器内のデータファイルが開かれていないこと、機器に対してアクセスが行われていないことを確認してください。

タスクバーにアンプラグツールのアイコンが表示されますので、これをクリックして表示されるメニューから、取り外しを行うデバイスをクリックしてください。取り外し処理が開始されます。

1. クリック
2. クリック





取り外し処理が完了すると、「デバイスは取り外すことができます。」とメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、接続デバイスを取り外してください。



USB 接続の場合

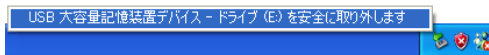
Windows 環境の場合

タスクトレイ上の「取り外し」のアイコンをクリックしてください。

- ・ Windows XP の場合 
- ・ Windows 2000、Me、98 の場合 

USB記憶装置を取り外す項目が表示されますので、これをクリックしてください。

例 (Windows XP の場合)



「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、USBケーブルを外し、電源スイッチをOFFにして、ACコードをコンセントから取り外してください。

Windows 2000、Me、98 の場合は「OK」ボタンをクリックしてから取り外してください。

Macintosh 環境の場合

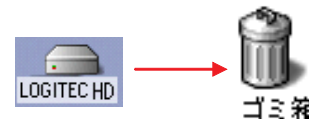
Mac OS X の場合は、本製品のアイコンをデスクトップ下の Dock にある「取り外し」アイコンに重ねてから、USBケーブルを外し、電源スイッチをOFFにして、ACコードをコンセントから取り外してください。



「取り外し」のアイコンは、通常右のような「ゴミ箱」の形をしています。本製品などの取り外し可能な記憶装置を選択した場合に、「取り外し」のアイコンに変化します。



Mac OS 9 の場合は本製品のアイコンをデスクトップにあるゴミ箱のアイコンに重ねてから、USBケーブルを外し、電源スイッチをOFFにして、ACコードをコンセントから取り外してください。



補足説明

起動ドライブとして使用する場合

PC 電源連動機能について

省電力機能の設定

サービスパックの確認について

オプション品について

起動ドライブとして使用する場合

本製品を起動ドライブとして使用する場合は、以下の点にご注意ください。

- ・ 弊社では、本製品へのOSの再インストールに関する保証・サポートは一切行っておりません。これを行う場合は、ご自身の責任で行ってください。コンピュータに詳しい知識のない方には、起動ハードディスクの変更はお勧めいたしません。また、一般的にOSの再インストールや起動ドライブの変更などは、メーカーからの保証を受けにくくなります。
- ・ メーカー製のパソコンなど、リカバリディスクなどからOSの再インストールを行うタイプの場合は、本製品にリカバリ（OSの再インストール）はできません。
- ・ OSの再インストール中に、インターフェースボードのドライバを読み込ませる必要があります。インターフェースボードのドライバは、マザーボード上のSATAコネクタをeSATAブラケットで外に出すタイプと、PCIバスなどに拡張ボードを使用するものとして使用するドライバが異なります。詳しくはご使用のマザーボードまたはeSATAインターフェースボードのマニュアルをご参照ください。
- ・ OSの再インストール時に、誤操作などにより、それまで使用していたシステムデータの消失を防ぐため、パソコン内部に接続されているハードディスクドライブに重要なデータがある場合は、あらかじめ別のメディアへデータのバックアップを行っておいてください。
- ・ 本製品にOSを再インストール後にインターフェースボードのドライバを削除すると、BIOSから本製品が認識されなくなり、OSが起動しなくなります。

インストール手順について

OSをインストールする際、SATA用のドライバをインストール作業中に読み込ませる必要があります。

このドライバは、通常、マザーボードやインターフェースボードに付属のCD-ROMに収録されています。通所は、このドライバをフロッピーディスクなどにコピーして、OSのインストール中に読み込ませます。詳しくは、マザーボードまたはインターフェースボードのマニュアルをご参照ください。

PC 電源連動機能について

本製品はPC電源連動機能を搭載しています。

PC電源連動機能とは、パソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源のON/OFFを切り替える機能のことです。

いったん本製品の電源モードSWを「AUTO」にしてパソコンに接続すれば、後はパソコンの電源のON/OFFに連動して本製品の電源もON/OFFされます。本製品の電源のON/OFFは下表のように切り替わります。

USB 接続時

動作	電源モードスイッチ	
	AUTO時	ON時
起動中のパソコンに接続した時	ON	常にON
接続先のパソコンの電源をOFFにした時	OFF	
接続先のパソコンがスリープや省電力モードから復帰した時	ON	
USBケーブルを外した時	OFF	
パソコンがシャットダウンしたとき	OFF	
パソコンがスリープや省電力モードになった時	OFF	

eSATA 接続時

動作	電源モードスイッチ	
	AUTO時	ON時
起動先のパソコンの電源をONにした時	ON	常にON
接続先のパソコンの電源をOFFにした時	OFF	
接続先のパソコンがスリープや省電力モードから復帰した時	ON	
eSATAケーブルを外した時	OFF	
パソコンがシャットダウンしたとき	OFF	
パソコンがスリープや省電力モードになった時	OFF	

eSATA 接続時は、インターフェースがホットプラグに対応していない場合は、常に電源スイッチは常に「ON」にしておいてください。

eSATA 接続時に、本製品からシステムを起動させる場合、電源を常に「ON」にし、スリープモードや省電力機能はOFFにしてください。

注意！（共通）

- Windows 98（Second Edition 含む）にて、本製品を接続してご使用の際、スタンバイ状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、スタンバイ（省電力）をOFFに設定してください。

省電力機能の設定

eSATA接続時には、使用するドライバや使用用途により、省電力機能をOFFに設定しなければいけない場合があります。具体的には、本製品にOSを再インストールし、起動を行う場合、インターフェースボードのドライバがホットプラグに対応していない場合があげられます。

また、USB接続時に、省電力状態から復帰時にシステムが不安定になるような場合は、省電力機能をOFFに設定してください。

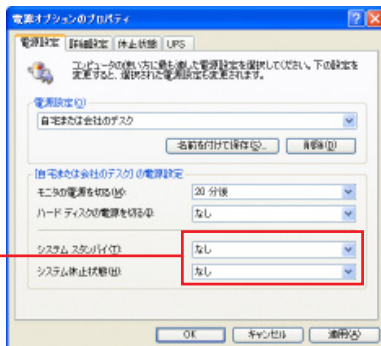
ここでは、省電力機能をOFFにする方法についてご説明いたします。

WindowsXP、2000 の場合

Windows XP , 2000で省電力機能をOFFにするには、「コントロールパネル」「電源オプション」を起動します。(Windows XPの場合、これはクラシック表示での起動方法です。)

以下のウィンドウが表示されたら、「システムスタンバイ」「システム休止状態」を「なし」にして、OKボタンをクリックしてください。(「システム休止状態」は下のように表示されない場合もあります。)

Windows XP の例

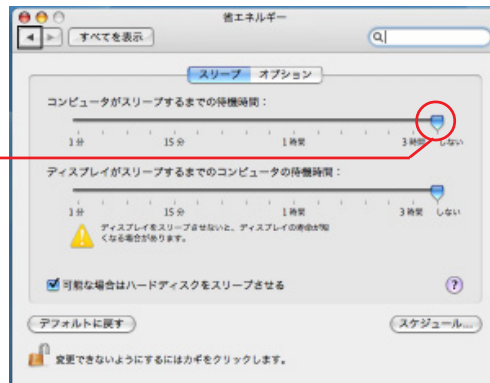


「なし」に設定

Mac OS X 環境の場合

「アップル」メニューから「システム環境設定」をクリックし、「システム環境設定」ウィンドウの一覧の中から「省エネルギー」をクリックしてください。

以下のウィンドウが表示されたら、「コンピュータがスリープするまでの待機時間」を「しない」に設定してください。



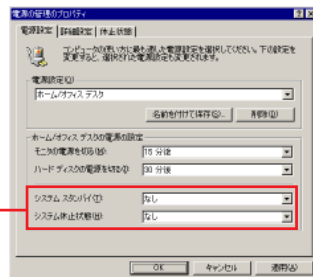
「しない」に設定

Windows Me、98 Second Edition

- Windows Me、98 で省電力機能をOFFにするには、「コントロールパネル」→「電源の管理」を起動します。「電源設定」のウィンドウが表示されたら、「システムスタンバイ」を「なし」にして、「適用」ボタンをクリックしてください。
「システムの休止状態」が表示されている場合は、こちらも「なし」にしてください。

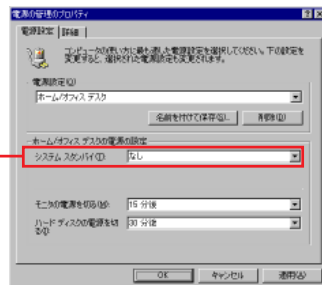
Windows Me

「なし」に設定



Windows 98

「なし」に設定



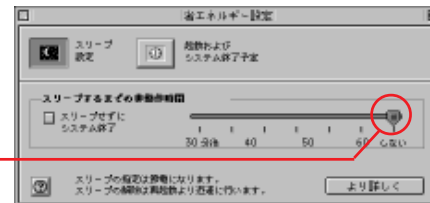
Mac OS 9.0.4 ~ 9.2.2 の場合

「アップル」メニューから「コントロールパネル」→「省エネルギー設定」をクリックします。

「省エネルギー設定」ウィンドウで「スリープ設定」タブが選択されていることを確認します。

「スリープ設定までの非動作時間」を「しない」に設定してウィンドウを閉じます。

「しない」に設定



サービスパックの確認について

Windows XP、2000をご使用で、ご使用のサービスパックのバージョンを確認する方法は次の通りです。

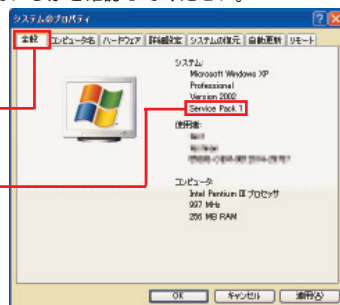
Windows XP の場合

「スタート」メニューから「マイコンピュータ」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」ウィンドウを表示させてください。

「全般」タブが選択されていることを確認し、「システム」の項に、「Service Pack x」と表示されているかを確認してください。

1. 「全般」タブが選択されていることを確認

2. この部分を確認



Service Pack x (xの部分)にはService Packのバージョンが表示されます)と表示されている場合は、これ以降のページを参照して本製品の接続とドライバのインストールを行ってください。

Service Pack x と表示されていない場合は、本製品を接続する前に Windows XP Service Pack1以降をインストールしてください。Windows XP Service Pack は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードするか、または、マイクロソフト社から Windows XP Service Pack の CD-ROM ディスクを入手 (有償) する必要があります。(詳しくはマイクロソフト社のホームページをご参照ください。)

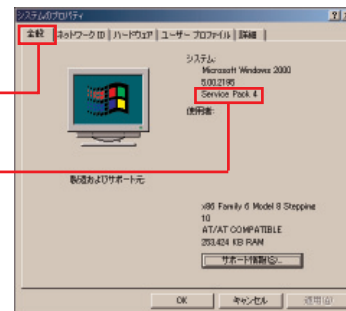
Windows 2000 の場合

「スタート」メニューから「マイコンピュータ」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」ウィンドウを表示させてください。

「全般」タブが選択されていることを確認し、「システム」の項に、「Service Pack 4」と表示されているかを確認してください。

1. 「全般」タブが選択されていることを確認

2. この部分を確認



Service Pack 4 と表示されている場合は、これ以降のページを参照して本製品の接続とドライバのインストールを行ってください。

Service Pack 4 と表示されていない場合は、本製品を接続する前に Windows 2000 Service Pack 4をインストールしてください。Windows 2000 Service Pack 4は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードするか、または、マイクロソフト社から Windows 2000 Service Pack 4の CD-ROM ディスクを入手 (有償) する必要があります。(詳しくはマイクロソフト社のホームページをご参照ください。)

オプション品について

弊社ではインターフェースボードやケーブルなどを別売品として取り扱っております。オプション品のお求めは、お買い求めいただいた販売店またはロジテックの安心オンラインショップ「ロジテックダイレクト」にてお求めください。

ロジテックダイレクトホームページ

<http://www.logitec-direct.jp>

PCIバス用USB 2.0インターフェースボード

型番	バス	備考
LHA-USB2V	PCI	インターフェースボード単体 Windows XP, Me, 98, 2000対応
LHA-USB2VA	PCI	インターフェースボード単体 Windows XP, Me, 98, 2000対応

PCI / PCI Expressバス用eSATAインターフェースボード

型番	バス	備考
LHA-SA32PE	PCI-Express	インターフェースボード単体 Windows XP, 2000対応
LHA-SA152P	PCI	インターフェースボード単体 Windows XP, 2000対応

CardBus対応USB 2.0インターフェースカード

型番	バス	備考
LPM-CBUSB2HB	CardBus	インターフェースカード単体 Windows, Mac OS X 10.3以降対応

ExpressCard / CardBus対応eSATAインターフェースカード

型番	バス	備考
LPM-ECSA32	ExpressCard	インターフェースカード単体 Windows XP, 2000対応
LPM-CBSA152	CardBus	インターフェースカード単体 Windows XP, 2000対応



ここではHDユニットをご使用の際に寄せられる良くある質問についてお答えしております。参照したい項目をクリックしてください。

製品をパソコンに接続したのですが認識されません。

製品をパソコンに接続したのですが認識されません。(続き)

本製品から、システム起動ができません。

Windows XP,2000で「ディスクの管理」が起動できません。

スリープ状態から復帰できないのですが？

Machintosh環境にUSB接続で使用していますが、スリープ状態から復帰した際に、取り外されたようなメッセージが表示されます。

Q >>>

question

本製品を接続したのですが認識されません。

A >>>

answer

ケーブルは正しく接続されていますか？

- ・ パソコン側、本製品側共に正しく差し込まれているかを確認してください。

AC アダプタを接続して使用していますか？

- ・ その場合は、電源スイッチの状態、電源コードを接続したコンセントの状態を確認してください。

本製品をハブ経由で接続していませんか？

- ・ その場合は、パソコンのポートに本製品だけを直接接続して試してみてください。
- ・ ご使用の製品がバスパワー対応の場合、ハブから電源供給量だけでは、本製品が使用できない場合があります。また、USB 接続の場合は、バッテリー駆動時に USB ポートからの電源供給を行わない機種もあります。

Q >>>

question

本製品を接続したのですが認識されません。(続き)

A >>>

answer

特定の OS で認識されない場合、フォーマット形式が、その OS では対応していない可能性があります。

- ・ 本製品を再フォーマットした場合、フォーマット形式が、ご使用の OS に合ったものであるかをご確認ください。

フォーマット形式 (ファイルシステム)	本製品の対応OSでの制限事項
NTFS	Windows XP、2000 で使用するためのフォーマット形式です。 Mac OS X 10.3 以降では読み込みのみサポートしています。 Windows Me、98、Mac OS 9.1 ～ 9.2.2、Mac OS X 10.0.4 ～ 10.2.8 環境では認識されません。
FAT 32	Windows 環境では全て認識されます。 Mac OS X 10.0.4 ～ 10.1.5では認識されません。 Mac OS X 10.2以降の場合、ハードディスクの容量が120 GBを超えると、容量制限の問題から認識されません。 Mac OS 9環境では、File Exchange が必要です。
HFS /HFS + (Mac OS 標準 /Mac OS 拡張)	Mac OS 専用のフォーマット形式です。 Macintosh環境で、このフォーマット形式でフォーマットした場合、Windows環境では認識されなくなります。

Q >>>

question

本製品から、システム起動ができません。

A >>>

answer

ご使用のOSおよび、接続形態をご確認ください。本製品はSATA接続時以外はシステム起動用ハードディスクとして使用することはできません。SATA接続をサポートしている場合でも、OSおよびマザーボードやインターフェースボードのマニュアルで示されている手順にしたがってOSをインストールしなければ、最悪の場合、コンピュータが起動しなくなるなどのトラブルも考えられます。OSおよび、マザーボード、インターフェースボードのマニュアルを良くご確認ください。

Q >>>

question

Windows XP,2000で「ディスクの管理」が起動できません。

A >>>

answer

管理者権限のあるユーザーとしてログオンしていますか？
「ディスクの管理」を起動するには、管理者権限を持つユーザー（例えば「コンピュータの管理者」や「Administrator」としてログオンしていなければなりません。

Q >>>

question

スリープ状態から復帰できないのですが。

A >>>

answer

パソコンのスリープ(サスペンド)状態の処理方法によりこのような現象が発生する場合があります。ご使用のパソコンによっては、パソコン本体メーカーから供給されるアップデートプログラムなどによりこの現象を回避できる場合もあります。スリープ状態から復帰できない場合は、スリープ(サスペンド)機能をOFFにしてご使用ください。

Q >>>

question

Machintosh 環境に USB 接続で使用していますが、スリープ状態から復帰した際に、取り外されたようなメッセージが表示されます。

A >>>

answer

Macintosh 環境に USB 接続した場合、上記のような症状が再現されます。取り外されたようなメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。そのまま問題なくご使用いただけます。

このメッセージは、eSATA 接続をしている場合は表示されません。

ハードウェア仕様

機種名		LHD- HBSSAU2シリーズ	
インターフェース		Serial ATA Revision 2.5 USB 2.0 High- Speed (USB 1.1 互換)	
ディスク回転数		7200 rpm	
最大データ 転送速度 *1		3Gbps (eSATA) 480 Mbps (USB High- Speed) 12 Mbps (USB Full- Speed)	
コネクタ形状		eSATA x 1 USB mini-B x 1	
環境条件 *2	動作時	温度	5 ~ 35
		相対湿度	20% ~ 80%
	保管時	温度	- 20 ~ 50
		相対湿度	20% ~ 80%
入力電圧		AC 100 V ± 10 % 50/60 Hz	
消費電力 (定格)		20 W (LHD- HBS750SAU2) 18 W (LHD- HBS500SAU2) 16.5 W (LHD- HBS400SAU2) 14.5 W (LHD- HBS300SAU2) 14.5 W (LHD- HBS250SAU2)	
外形寸法 幅 × 奥行き × 高さ *3		46 × 220 × 169 mm	
重量		1.6 kg	

*1 理論値

*2 ただし結露なきこと

*3 本体のみ

記憶容量については、製品のパッケージをご覧ください。

保証とサービスについて

製品には、保証書が添付されています。

保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししています。記載内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間は保証書に記載されています。お買い上げ日より有効です。

サービスを依頼される場合

修理品については、弊社サービス窓口にお送りいただくか、お求めいただいた販売店へご相談ください。
故障かどうか判断がつかない場合は、事前に下記弊社テクニカルサポートにお問い合わせください。

弊社サービス窓口およびテクニカルサポートの連絡先については、**次ページの「ユーザーサポート窓口のご案内」**をご参照ください

保証期間中の修理につきましては、保証規定に従い修理いたします。

保証期間終了後の修理につきましては、「テクニカルサポートセンター」までご連絡ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理させていただきます。(修理に代わって同等品と交換させていただく事があります)なお、補修用性能部品(製品の機能を維持するための部品)の最低保有期間は、製品終息後5年間です。

ユーザーサポート窓口のご案内

製品に対する技術的な質問や、取扱説明書に対するお問い合わせ

お問い合わせの際に次の ~ の内容をご確認の上、弊社「テクニカルサポート」までお問い合わせください。

現在の状態（できるだけ詳しく）

製品の名称/シリアル番号（保証書に記載されています）

ご購入年月日、ご購入先

テクニカルサポート連絡先（ナビダイヤル）

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8 2 6 8 ロジテック株式会社 テクニカルサポート

TEL. 0570-022-022 FAX. 0570-033-034

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～18：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）

携帯電話（FAX）、PHS（TEL、FAX共）、ひかり（光）電話（TEL、FAX共）、IP電話（TEL、FAX共）はご利用になれません。

郵送または宅配便にて修理依頼される場合のお願い

- ・ 送料および、梱包費用は保証期間の有無を問わずお客様のご負担になります。
- ・ 保証期間中の場合は、保証書を商品に添付してください。
- ・ 必ず、「お客様のご連絡先（ご住所/電話番号）」「故障の状態」を書面にて添付してください。
- ・ 保証期間経過後の修理については、お見積りもりの必要の有無、または修理限度額および連絡先を明示のうえ、製品に添付してください。
- ・ ご送付の際は、緩衝材に包んでダンボール箱（本製品の梱包箱、梱包材を推奨します）等に入れて、お送りください。

修理品送付先

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8268

ロジテック（株）修理サポートセンター（3番受入窓口）

TEL：0265-74-1423 FAX：0265-74-1403

受付時間： 月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～17：00（祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く）